

ベトナム国 農業農村開発省 (MARD) 林業局 (DOF)  
ベトナム林業大学 (VFU)  
ベトナム森林科学研究所 (FSIV)

ベトナム国  
AR-CDM 促進のための能力向上開発調査

ファイナルレポート  
- 小規模 AR-CDM プロジェクト事業の有効化審査 -  
要 約

平成 21 年 2 月  
(2009 年)

独立行政法人国際協力機構  
(JICA)

委託先  
日本工営株式会社  
株式会社 双日総合研究所

<b>通貨レート (Transfer Rate of Vietcom Bank)</b>
US\$ 1.0 = ¥ 89.45 = 17,487 VND (2009年2月5日現在)
US\$ = United State Dollar
¥ = Japanese Yen
VND = Vietnamese Dong

## 序 文

日本国政府はベトナム国政府の要請に基づき、「AR-CDM 促進のための能力向上開発調査」を行うことを決定し、独立行政法人国際協力機構がこの調査を実施いたしました。

当機構は、平成 18 年 10 月から平成 20 年 12 月まで、日本工営株式会社の佐々木昭彦氏を団長とし、同株式会社及び株式会社双日総合研究所から構成される調査団を現地に派遣いたしました。

調査団は、ベトナム国政府関係者と協議を行うとともに、計画対象地域における現地調査を実施し、帰国後の国内作業を経て、ここに本報告書完成の運びとなりました。

この報告書が、本計画の推進に寄与するとともに、両国の友好・親善の一層の発展に役立つことを願うものです。

終わりに、調査にご協力とご支援を戴いた関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

平成 21 年 2 月

独立行政法人 国際協力機構

理事 松本 有幸

独立行政法人 国際協力機構  
理事 松本 有幸 殿

## 伝 達 状

ベトナム国 AR-CDM 促進のための能力向上開発調査が終了しましたので、ここに最終報告書を提出します。

本調査は、ベトナム国の政府関連機関が AR-CDM を推進するために必要となる能力向上を支援することを目的に実施されました。調査は平成 18 年 10 月に始まり、当初予定を約 1 年間延長して平成 21 年 2 月までの 28 ヶ月に亘り実施され、8 名の日本人専門家が参加しました。

本調査が始まった平成 18 年は、UNFCCC の CDM 理事会がやっと複数の方法論を承認し、AR-CDM 第 1 号案件を登録した年でした。AR-CDM 事業形成に関する知見が乏しいため、調査団は「Learning by doing」をモットーに、より実践的な能力向上に努め、カウンターパートとも協議し、実施を前提とした小規模 AR-CDM パイロット事業の計画策定を行いました。幸い、パイロット事業実施のための資金を拠出していただける本邦民間企業が見つかり、また調査期間も 1 年間延長されて CDM 事業登録を目指した有効化審査実施に対する追加支援を行い、UNFCCC CDM 理事会に対する事業登録申請まで漕ぎ着けることができました。今後、本パイロット事業が CDM 事業として登録され、本調査の成果がベトナムのみならず周辺諸国における AR-CDM 促進に資することを願ってやみません。

最後に、本調査の実施に当たり、多大なご支援を賜りました、貴機構、国内支援委員、外務省、農林水産省の関係各位に心よりお礼申し上げます。また、現地調査を通じて、貴機構ベトナム事務所および在ベトナム日本国大使館からも多くの支援・助言を頂きました。カウンターパート機関となる農業農村開発省（MARD）森林局、ベトナム林業大学（VFU）、森林科学研究所（FSIV）・森林生態環境研究所（RCFEE）のみならず、パイロット事業が位置するホアビン省及びカオフォン県人民委員会とも密接に連携し、円滑かつ効率的に開発調査を遂行できましたこと、お礼申し上げます。

平成 21 年 2 月

ベトナム国 AR-CDM 促進のための能力向上開発調査  
総括 佐々木昭彦



ホアビン省位置図

ベトナム国

AR-CDM 促進のための能力向上開発調査  
ファイナルレポート  
- 小規模 AR-CDM パイロット事業の有効化審査 -  
要約

目 次

序 文	
伝達状	
調査対象地位置図(ホアビン省)	
	<u>ページ</u>
第1章 調査の背景と目的	
1.1 調査の背景.....	1-1
1.2 調査.....	1-1
1.2.1 調査の目的.....	1-1
1.2.2 調査の構成.....	1-2
1.2.3 調査のアウトプット.....	1-2
1.2.4 報告書等.....	1-3
1.3 調査実施体制.....	1-3
1.3.1 調査団の構成.....	1-3
1.3.2 カウンターパート機関及び実施体制.....	1-5
1.4 作業計画.....	1-6
1.5 ステアリングコミッティ会議.....	1-9
第2章 小規模 AR-CDM パイロット事業の有効化審査	
2.1 有効化審査プロセス.....	2-1
2.2 DOE/AE の選定と契約締結.....	2-2
2.3 DOE による PDD のデスクレビュー.....	2-2
2.4 現地有効化審査準備.....	2-3
2.5 現地有効化審査.....	2-3
2.6 DOE による是正措置および明確化要求事項.....	2-6
2.6.1 是正措置要求事項.....	2-6
2.6.2 明確化要求事項.....	2-7
2.7 ベトナム DNA に対する事業承認要請.....	2-11
2.8 UNFCCC に対する CDM 事業登録申請.....	2-13
2.9 有効化審査受審から得られた AR-CDM 事業形成に係わる教訓.....	2-13
第3章 環境社会配慮	
3.1 環境社会配慮に関連するベトナム国の法制度.....	3-1
3.2 環境社会配慮.....	3-2
3.2.1 小規模 AR-CDM パイロット事業の概要.....	3-2
3.2.2 小規模 AR-CDM パイロット事業に対する環境社会配慮.....	3-3
3.2.3 小規模 AR-CDM パイロット事業の実施による環境・社会経済影響の評価.....	3-4

**別添:**

- 1 実施細則 (S/W) 、実施細則協議議事録 (M/M)
- 2 第 1 回～第 4 回ステアリングコミッティ会議議事録

**文中表:**

表 1.1	報告書等の内容.....	1-3
表 1.2	調査団の構成.....	1-3
表 2.1	現地有効化審査日程.....	2-2
表 3.0	MONRE が EIA 報告書の評価・承認を行うプロジェクト一覧 .....	3-1
表 3.1	プロジェクト対象地の現況土地利用.....	3-2
表 3.2	小規模 AR-CDM パイロット事業の概要.....	3-2
表 3.3	世帯当たりの期待便益.....	3-3
表 3.4	事業活動による環境社会影響 (スコーピング結果) .....	3-4
表 3.5	自然・社会環境影響の詳細及び軽減策.....	3-5

**文中図:**

図 1.1	要員計画.....	1-4
図 1.2	調査実施体制.....	1-6
図 1.3	調査業務実施のフローチャート.....	1-7
図 2.1	有効化審査及び事業登録の流れ.....	2-1
図 3.1	小規模 AR-CDM パイロット事業位置図.....	3-3

略語表：

AR-CDM	Afforestation/Reforestation Clean Development Mechanism	新規植林・再植林 CDM
CDM	Clean Development Mechanism	クリーン開発メカニズム
CDM-EB	Clean Development Mechanism Executive Board	CDM 理事会
DARD	Department of Agriculture and Rural Development	省農業農村開発局
DNA	Designated National Authority	国家指定機関
DOE	Designated Operational Entities	指定運営機関
DOF	Department of Forestry	林業局 (MARD)
EB	Executive Board	理事会
EIA	Environmental Impact Assessment	環境影響評価
FDF	Forest Development Fund, Hoa Binh	森林開発基金 (ハ イロット事業の事業主体となる NPO)
FSIV	Forest Science Institute of Vietnam	森林科学研究所
GHG	Greenhouse Gas	温室効果ガス
IPCC	Intergovernmental Panel on Climate Change	気候変動に関する政府間パネル
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
LULUCF	Land-use, Land-use Change and Forestry	土地利用,土地利用変化及び林業
MARD	Ministry of Agriculture and Rural Development	農業農村開発省
MONRE	Ministry of Natural Resources and Environment	天然環境資源省
NPO	Nonprofit Organization	非営利団体
NTFP	Non Timber Forest Products	特用林産物、非木材林産物
PC	People's Committee	人民委員会
PDD	Project Design Document	プロジェクト設計書
PRA	Participatory Rural Appraisal	参加型農村調査法
QA	Quality Assurance	品質保証
QC	Quality Control	品質管理
RCFEE	Research Center for Forest Ecology and Environment	森林生態・環境研究所
SD	Standard Deviation	標準偏差
SOP	Standard Operating Procedures	標準作業手順書
tCER	Temporary Certified Emission Reductions	短期期限付き認証排出削減量
UNFCCC	United Nations Framework Convention on Climate Change	国連気候変動枠組み条約
VFU	Vietnam Forestry University	ベトナム林業大学
VND	Vietnam Don (Currency)	ベトナムドン (通貨)
5MHRP	Five Million Hectare Reforestation Program	500 万ヘクタール国家造林計画



## 第 1 章 調査の背景と目的

### 1.1 調査の背景

1997 年の地球温暖化防止京都会議（COP3）において、先進各国に温室効果ガス（以下、GHG: Greenhouse Gas）の排出削減率を課した京都議定書が採択され、その中で先進国と途上国が共同で排出削減を推し進める『クリーン開発メカニズム（以下、CDM）』が取り組みの一つとして盛り込まれた。

ベトナム国政府は、2002 年 9 月に京都議定書を批准した。2003 年 3 月には天然資源環境省（以下、MONRE）国際協力局が CDM 国家機関（CNA: CDM National Authority）に指定され、指定国家機関（DNA: Designated National Authority）の機能を担うことになった。また、2003 年 4 月には MONRE 国際協力局長が議長を務め、各省庁 12 名のメンバーから構成される国家 CDM 理事会（CNECB: CDM National Executive and Consultative Board）が諮問機関として設置されるなど、MONRE を主たる担当機関とする CDM 全般に関する基本的な体制を構築し、地球温暖化対策に積極的に取り組んでいる。

ベトナム国政府は、GHG 削減の目的のみならず、2005 年時点で国内に 600 万ヘクタール以上残されている裸地を早急に解消していく必要性からも AR-CDM を積極的に進めたいとしており、AR-CDM の促進を担当する政府機関の中核（フォーカルポイント）である農業農村開発省（以下、MARD）は、AR-CDM のための森林の定義を定めるなど、必要な準備を進めていた。しかしながら、AR-CDM は国際的にも全く新しい事業であるため、MARD をはじめとする AR-CDM に関連する機関が持つ知識、技術、実施能力が極めて限られていることが、AR-CDM の推進にあたっての課題となっていた。

このような背景から、ベトナム国政府は 2004 年 7 月に日本政府に対して AR-CDM を積極的に推進するための開発調査の実施を要請した。これを受け、独立行政法人国際協力機構（JICA）は 2005 年 5 月から 2006 年 3 月にかけて第 1 次および第 2 次予備調査と事前調査を実施し、2006 年 7 月に農業農村開発省（MARD）との間で本格調査の実施細則（S/W）<sup>1</sup>に合意・署名した。

### 1.2 調査

#### 1.2.1 調査の目的

本調査の目的は、以下の 2 点に集約される。

- 1) ベトナム国において政府関連機関（MARD 林業局 [DOF]、ベトナム林業大学 [VFU]、森林科学研究所 [FSIV]）が AR-CDM を推進するために必要な能力向上を支援する。
- 2) ベトナム国において AR-CDM を推進するためのビジョン（AR-CDM を取り巻くベトナム国の理想的な全体構想）及びそれを実現するための方策（制度や能力向上支援活動など）を明確化し、提言する。

<sup>1</sup> 別添-1 参照

### 1.2.2 調査の構成

本調査は、能力向上に関わる以下の 3 つのコンポーネントで構成された。また、それらのコンポーネント実施を通じて、ベトナム国における AR-CDM を推進するためのビジョン（全体構想）及びそれを実現・展開するための制度、能力向上等に係る方策を検討し、提言を行った。各コンポーネントの内容は以下のとおりであった。

① AR-CDM 理解促進支援：	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ カウンターパート機関、政府関連機関、潜在的プロジェクト開発事業者および投資家に対して、AR-CDM に係る理解促進を図るためのセミナーやワークショップを開催する。</li> <li>➤ カウンターパート機関が、関連機関や潜在的プロジェクト開発事業者に対する AR-CDM 関連のセミナーやワークショップを自ら開催できる能力習得を目指す。</li> <li>➤ さらに、ウェブサイト構築を通じて一般をも対象とした AR-CDM に係る理解促進を支援する。</li> </ul>
② 情報提供の仕組み整備支援：	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ フォーカルポイントである MARD 林業局（DOF）と関係機関が協力して、国内外の AR-CDM 事業者や投資家など幅広いステークホルダーに対し必要な情報やサービスを提供し、かつ双方向の情報伝達が可能となる仕組み（ヘルプデスク、ウェブサイト等）を試行的に構築する。</li> <li>➤ 情報およびサービス提供に係わる各関連機関の役割と責任を明確化する。</li> </ul>
③ 小規模 AR-CDM プロジェクト開発に係る能力向上支援：	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 必要に応じて、カウンターパートと調査団が共同でベースライン方法論とモニタリング方法論のドラフト開発を行う。また、プロジェクト設計書（PDD）ドラフトの作成を行い、プロジェクト開発事業者や投資家がどのような情報や支援を必要としているかを学び、小規模であればベトナム側が独自でプロジェクトを開発できる能力習得を目指す。</li> </ul>

### 1.2.3 調査のアウトプット

本調査の主要アウトプットは次の通りであった。

- ① AR-CDM 促進に関するビジョン及びその方策の提言
- ② ベトナムにおける AR-CDM 推進に係る開発事業者向けガイドブック
- ③ AR-CDM 関連の情報を掲載したウェブサイト
- ④ 小規模 AR-CDM パイロット事業のプロジェクト設計書（PDD）

## 1.2.4 調査報告書等

本調査団が作成提出した報告書等およびその内容は次のとおりである。

表 1.1 報告書等の内容

報告書等	提出時期（予定）	内 容
1. インセプションレポート	平成 18 年 11 月	調査計画および方法
2. インテリムレポート	平成 19 年 2 月	第 1 年次の調査結果
3. ドラフトインテリムレポート(2) インテリムレポート(2)	平成 20 年 1 月 平成 20 年 3 月	第 1 年次～2 年次調査結果の総まとめ（調査期間延長前のファイナルレポートの内容）
4. Draft PDD Final PDD	平成 20 年 3 月 平成 21 年 2 月	小規模 AR-CDM パイロット事業のドラフト PDD パイロット事業の事業登録申請に用いた PDD と有効化審査及び DNA 承認のために作成した各種資料
5. AR-CDM ガイドブック	平成 20 年 3 月	小規模 AR-CDM の詳しい内容を取りまとめたガイドブック
6. AR-CDM 小冊子	平成 20 年 3 月	小規模 AR-CDM の概要を取り纏めた冊子
7. ドラフトファイナルレポート ファイナルレポート	平成 20 年 12 月 平成 21 年 2 月	小規模 AR-CDM パイロット事業の有効化審査受審内容

なお、本調査の調査期間は 1 年間延長され、延長期間にパイロット事業に対する有効化審査受審支援を実施した。そのため、S/W 上のファイナルレポートはインテリムレポート（2）と改題しそこに 1 年次～2 年次調査の全活動内容を記載、ファイナルレポートには延長期間中（第 3 年次）に実施した有効化審査受審内容のみ記載した。

## 1.3 調査実施体制

### 1.3.1 調査団の構成

本調査団の要員構成は以下のとおりであった。要員計画は図 1.1 に示すとおりである。

表 1.2 調査団の構成

担 当	氏 名
総括/CDM 制度構築(1)	佐々木 昭彦
CDM 制度構築(2)	根岸 博生
CDM 植林(1)	山ノ下 麻木乃
CDM 植林(2)	中村 友紀
CDM 事業計画(1)	石川 賢
CDM 事業計画(2)	鳥生 毅
CDM セミナー/PDD 審査	大串 卓矢
衛星画像解析	森田 格
業務調整	中村 友紀

なお、JICA は本調査の内容に関して、専門的かつ技術的立場から検討審議を行う国内支援委員会を設置し、調査に対する支援を行った。



### 1.3.2 カウンターパート機関及び実施体制

本調査のカウンターパート機関は、MARD 林業局 (DOF)、ベトナム林業大学 (VFU) および森林科学研究所 (FSIV) である。本調査では、調査活動を円滑に進めるために以下の3つの組織が設立された。

組 織	役割、構成等		
ステアリング・コミッティー	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 中央レベルで調査実施・監理を総括する</li> <li>➤ MARD 林業局 副局長 (あるいはそれに相当する者) が議長</li> <li>➤ ベトナム側関係省庁、VFU、FSIV、JICA ベトナム事務所と調査団がメンバー</li> <li>➤ ステアリング・コミッティーの会議は、インセプションレポートの検討・承認、調査成果の確認のために開催する</li> </ul>		
スタンディング・ユニット	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ MARD 林業局内に設置し、ステアリング・コミッティーの役割を補佐する</li> <li>➤ 調査団およびカウンターパート・チームと2週間に一度を目処に会合を持ち、調査実施に必要な指示・助言を行う</li> <li>➤ 関連機関からの意見集約・調整を行う</li> </ul>		
	名前	ポジション	
	1. Mr. Pham Duc Tuan	Vice Director of DoF	
	2. Mr. Bui Chinh Nghia	Head of Forest Basic Inventory Division, DoF	
カウンターパート・チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 調査団とともに活動を実施したメンバーは以下の通り。</li> </ul>		
	名前	C/P 内ポジション	所属
	1. Mr. Pham Xuan Hoan	Project Director	VFU
	2. Ms. Do Thi Ngoc Bich	Project Coordinator	VFU
	3. Mr. Nguyen Quang Ha		VFU
	4. Mr. Pham Van Dien		VFU
	5. Mr. Pham Minh Toai		VFU
	6. Mr. Nguyen The Dung		VFU
	7. Ms. Nguyen Thi Bich Hao		VFU
	8. Ms. Phi Thi Hai Ninh		VFU
	9. Ms. Le Hong Lien		VFU
	10. Mr. Vu Tan Phuong		RCFEE/FSIV
	11. Mr. Tran Lam Dong		FSIV
	12. Mr. Nguyen Tien Hung		RCFEE/FSIV
	13. Mr. Nguyen Thanh Tung		RCFEE/FSIV
	14. Ms. Tran Thi Thu Ha		RCFEE/FSIV
	15. Mr. Nguyen Viet Xuan		RCFEE/FSIV
	16. Mr. Nguyen Hung Cuong		VFU
	17. Mr. Tran Trung Thanh		RCFEE/FSIV
	18. Mr. Pham Ngoc Thanh		RCFEE/FSIV
	19. Mr. Tran Ngoc The		VFU
	20. Mr. Nguyen Dinh Hai		VFU
	21. Ms. Mai Thi Thanh Nhan		VFU
	22. Ms. Tran Mai Sen		VFU

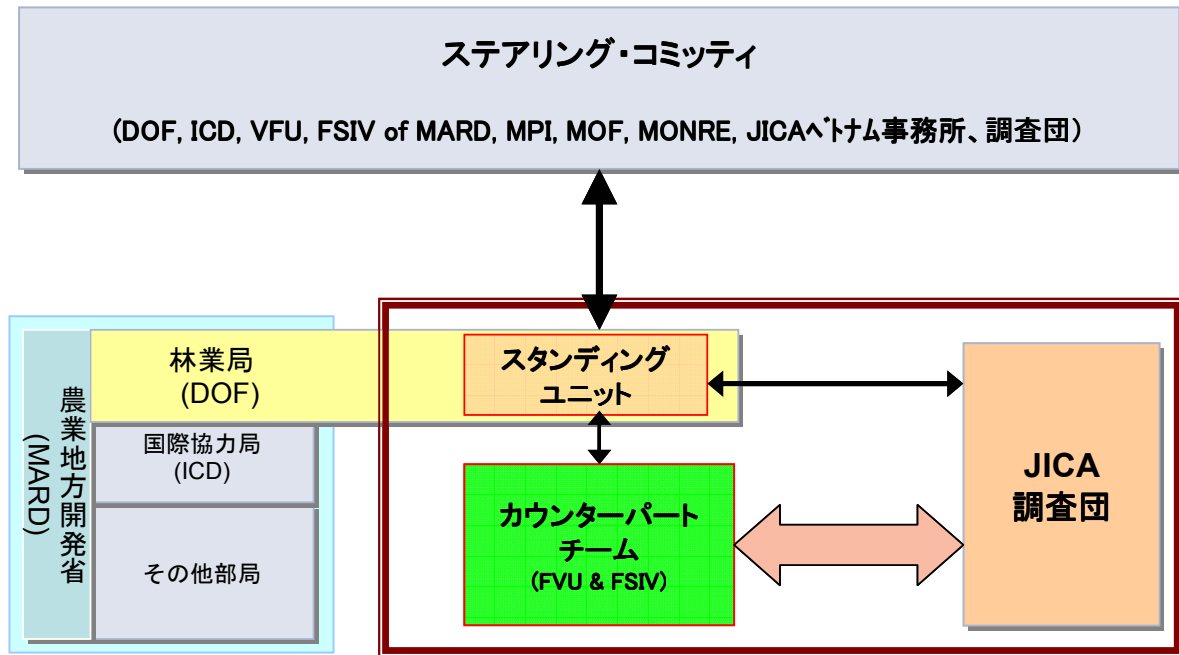


図 1.2 調査実施体制

#### 1.4 作業計画

これまで本調査では平成 18 年 10 月下旬から平成 20 年 1 月まで、国内準備作業、2 度に亘る現地調査および国内作業を行った。また、平成 20 年 2 月には第 3 次現地調査を行い、これまでの成果をベトナム国側へ説明した。しかしながら、本調査で策定した小規模 AR-CDM パイロット事業の実現をサポートするため、平成 19 年 8 月にベトナム国側から日本政府に対し本調査の 1 年延長と有効化審査支援に関する要請があった。日本側はこれを受諾し、本調査の 1 年間延長と有効化審査の受審支援が決まった。

本調査業務実施のフローチャートは、図 1.3 に示すとおりである。

##### 第 1 年次

- 国内準備作業 : 平成 18 年 10 月下旬
- 第 1 次現地調査 : 平成 18 年 11 月上旬～平成 19 年 2 月上旬
- 第 1 次国内作業 : 平成 19 年 2 月中旬

##### 第 2 年次

- 第 2 次現地調査 : 平成 19 年 5 月中旬～11 月下旬
- 第 2 次国内作業 : 平成 19 年 12 月上旬
- 第 3 次現地調査 : 平成 20 年 2 月中旬～下旬
- 第 3 次国内作業 : 平成 20 年 2 月下旬～3 月上旬

##### 第 3 年次

- 第 4 次国内作業 : 平成 20 年 5 月中旬～下旬
- 第 4 次現地調査 : 平成 20 年 6 月中旬、7 月下旬～8 月上旬
- 第 5 次国内作業 : 平成 20 年 6 月下旬、8 月上旬～9 月下旬
- 第 5 次現地調査 : 平成 20 年 12 月中旬
- 第 6 次国内作業 : 平成 21 年 2 月中旬

図1.3 調査業務実施のフローチャート(1/2)

年次	年・月	準備作業	能力向上支援			AR-CDM推進ビジョン・実現のための方策の提言	セミナー・ワークショップ等	レポート等	先方機関に対する説明・協議
			AR-CDM理解促進支援	情報提供の仕組み整備支援	小規模AR-CDMプロジェクト開発に係る能力向上支援				
平成18年度 (第1年次)	2006年10月	AR-CDMに係る最新動向の把握、CDM理事会に提出された方法論及びPDDの分析 調査内容・方法の検討						Ic/R(案)作成	
	11月	関連資料・情報の収集・分析 関係機関の役割・責任の明確化 調査実施手順の検討	C/Pに対する理解促進支援の内容・実施方法の検討	情報提供の仕組みに係る基本構想検討	PDDドラフト作成対象適地の選定、基本構想検討 PDD作成手順および必要情報の確認 PDD作成に係る関係機関の役割・責任の明確化 PDDドラフト作成対象候補地の確認 PDDドラフト作成対象候補地に係る情報収集 PDDドラフト作成対象候補地の現場踏査	CDM国家戦略及びAR-CDM関連既存計画のレビュー AR-CDM推進の阻害要因把握	共同実施計画書作成 Ic/R作成	Ic/R(案)の説明 ステアリング・コミティ開催支援、Ic/R承認	
		12月		C/Pに対する理解促進支援の実施					情報提供のためのウェブサイト構築の基本構想検討および必要情報収集
		2007年1月		関係機関に対する理解促進支援の実施					開発事業者および投資者等を対象としたガイドブックの基本構想検討および必要情報収集
	2月			第2年次調査の進め方確認				インテリム・レポート作成	
平成19年度 (第2年次)	3月								
	4月								
	5月			ウェブサイト構築	PDDドラフト(案)作成 対象地域住民を含む関係者に対する説明 追加性の論証(投資バリア等)の検証及び確定 方法論案(NMB, NMM)の検討・分析及び確定 リーケージ推計の必要性及び推計方法の検討・確定 土地適格性の証明(衛星画像解析) プロジェクト実施管理形態の検討 プロジェクト事業者、投資者、CERバイヤーの検討 プロジェクトの経済的、社会的影響の検討 プロジェクトの環境的影響の検討 プロジェクト関係者のコメント収集 PDDドラフト(案)の作成及び情報の取り纏め	AR-CDM推進のための方策(組織体制、制度、資金等)の検討 ベトナムにおけるAR-CDM事業のポテンシャル検討	開発事業者向けガイドブック作成	ステアリング・コミティ開催、インテリムレポート説明・協議	
	6月		情報提供の仕組み構築のための関係機関との調整及び必要情報の準備						
	7月		情報提供の仕組みの具体案提示と関係機関における合意形成						
	8月	開発事業者、投資者に対する理解促進支援の内容・実施方法の検討及び準備							
	9月								
	10月	開発事業者、投資者に対する理解促進支援の実施	情報提供の仕組みの試行及び検証(ヘルプデスク運営)	(ウェブサイト運営)			調査結果共有セミナー AR-CDMバリデーションW/S AR-CDM開発事業者向けセミナー	PDDドラフト(案)作成	
	11月								
	12月							DIt/R2の作成	
2008年1月									
2月			Ic/R(2)に対するコメントの収集				AR-CDM理解促進セミナー(2)		【5-1】ステアリング・コミティ開催、DIt/R(2)説明・協議
3月							【6-1】Ic/R2の提出		

国内作業  
現場作業

図1.3 調査業務実施のフローチャート(2/2)

年次	年・月	準備作業	能力向上支援			AR-CDM推進ビジョン・実現のための方策の提言	セミナー・ワークショップ等	レポート等	先方機関に対する説明・協議	
			AR-CDM理解促進支援	情報提供の仕組み整備支援	小規模AR-CDMプロジェクト開発に係る能力向上支援					
平成20年度 (第3年次)	2008年4月				有効化審査受審支援 DOEの選定、契約 DOEへの情報提供 有効化審査の受審支援 適宜必要に応じたPDDのアップデート					
	5月									
	6月									
	7月									
	8月									
	9月									
	10月									
	11月							Df/Rの作成・提出		
	12月								ステアリング・コミッティ開催、Df/Rの説明・協議	
	2009年1月		Df/Rに対するコメントの収集							
	2月								F/Rの作成・提出	
	3月									
成果		MARD、関連省庁/機関がAR-CDMに関する十分な知識を持つ	カウンターパートがAR-CDMに係る技術情報を整理・管理し、外部に発信できるようになる	カウンターパートがAR-CDMに係る計画立案から事業実施まで体系的に修得し、AR-CDMを普及できるようになる						

国内作業  
 現場作業



## 1.5 ステアリングコミッティ会議

本調査のステアリングコミッティ会議はこれまで4回開催された。第1回会議は2006年11月17日に開催し、インセプションレポートの内容について協議を行い、コメントを反映して最終化することが合意された。

第2回ステアリングコミッティ会議は2007年5月18日に開催し、第1次現地調査の結果を取りまとめたインテリムレポートの内容を協議した。その中でベトナム側出席者から『本調査の中で検討されている小規模AR-CDM用新規方法論の開発は非常に難しく、コストが掛かり、開発してもUNFCCCに承認されないリスクもある。UNFCCCは既に1つの小規模用方法論を承認しており、本調査団もこの承認済み方法論を用いるべきである』とのコメントが出された。議論の結果、議長は「調査団からMARD林業局に対して小規模方法論を開発しないことの妥当性に係るペーパーを提出する」ことを提案した。そして調査団は2007年6月15日付でMARD林業局に対して本ペーパーを提出した。

第3回ステアリングコミッティ会議は2008年2月22日に開催し、調査団はホンダベトナムの資金援助で実施が決まっている小規模AR-CDMパイロット事業を含む、本調査の結果全てを取りまとめたインテリムレポート(2)の内容を説明。議長から「本調査は過去のプロジェクトの中でも最も良く実施されたものである」との賞賛を受けた。本会議では第2回ステアリングコミッティ会議で議論された「新規方法論開発のキャンセル」について合意し、またパイロット事業の有効化審査支援のために調査期間を1年間延長することが承認された。

最終回となる第4回ステアリングコミッティ会議は2008年12月15日に開催された。本会議で調査団は2008年7月～11月にかけて実施したDOEによる有効化審査の内容、および有効化審査受審を通じて得られた教訓等について説明。ベトナム側出席者からは「本調査はカウンターパート機関や地方政府と密に連携し非常に効率的に実施され、AR-CDMに関わる能力向上のみならず、後続案件への参考となる小規模AR-CDMパイロット事業の実現にまでこぎ着けた」と本調査に対する賞賛を受けた。

各ステアリングコミッティ会議の議事録は別添-2に示すとおりである。

## 第2章 小規模 AR-CDM パイロット事業の有効化審査

### 2.1 有効化審査プロセス

調査団は小規模 AR-CDM パイロット事業の有効化審査受審を支援した。有効化審査から事業登録までのプロセスは以下の通りである。

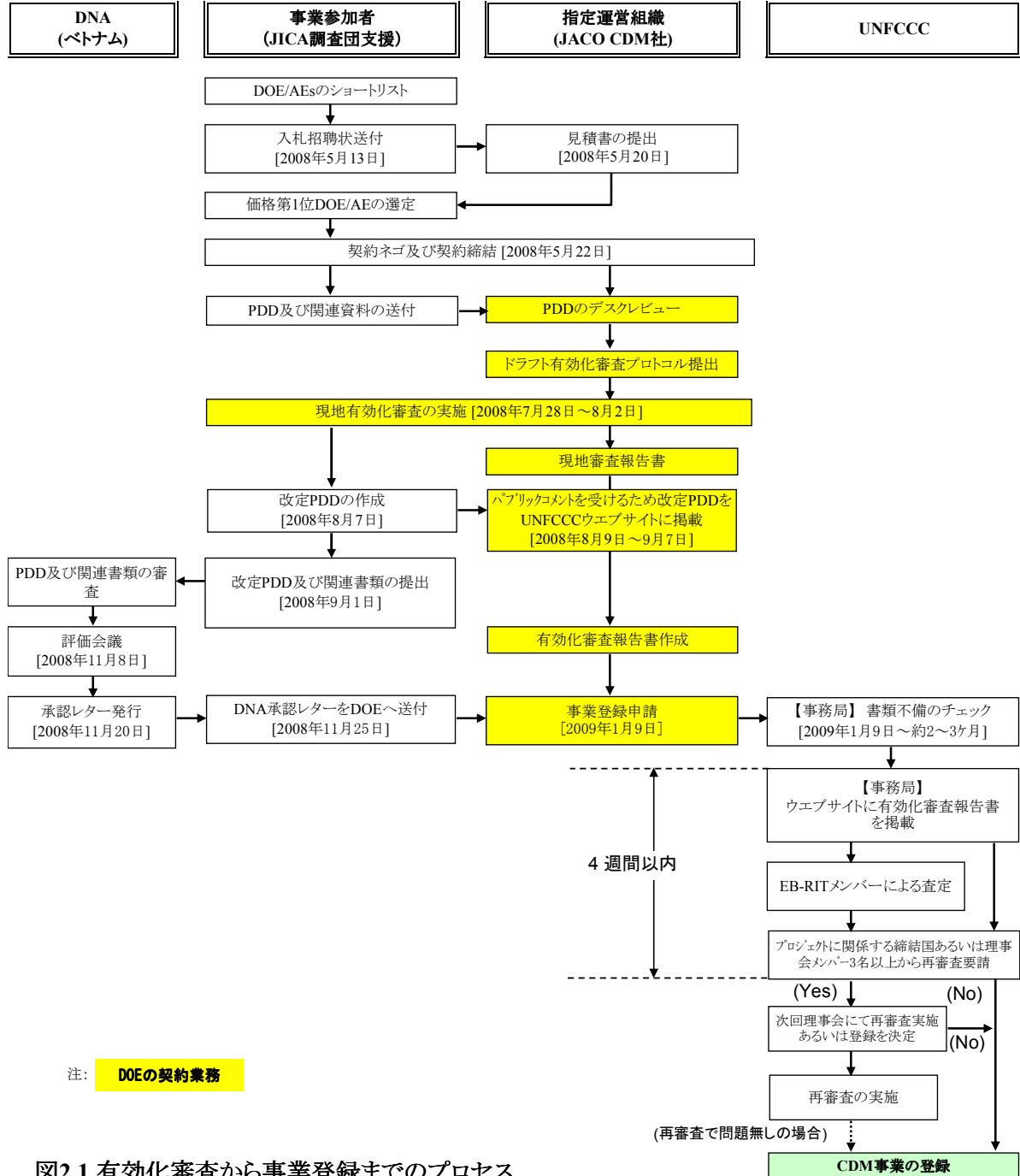


図2.1 有効化審査から事業登録までのプロセス

## 2.2 DOE/AE の選定と契約締結

調査団は次の手順で有効化審査を実施する DOE/AE を選定し契約を締結した。

### (1) DOE/AE のショートリスト

2008年5月時点でCDM理事会がスコープ14(植林・再植林)のDOEとして認証しているDOEはTÜV-SÜD社のみであった。しかし、TÜV-SÜD社のAR-CDM担当審査員は常に多忙であり、調査団が予定している時期に有効化審査を実施できない懸念があった。一方、DOE一社だけでは価格競争にならないことをも考慮し、調査団はDOE(TÜV-SÜD社)のみならず有効化審査を実施できるスコープ14のAE(申請組織)の中から、日本国内に事務所を持つ下記3社をショートリストした。

- (a) TÜV-SÜD Japan - DOE
- (b) Japan Quality Assurance Organization (JQA) - AE
- (c) JACO CDM Ltd. - AE<sup>1</sup>

### (2) DOE/AEs に対する入札招聘状送付

調査団はショートリストした3社に対して、2008年5月13日付けで本事業に対する有効化審査の見積書提出依頼を送付した。依頼書にはPDD及び契約書案を添付し、下記条件も記載した。

- (a) 現地有効化審査は2008年7月22日～8月15日の間に実施する。
- (b) 最低価格を提示した会社と契約交渉を行う。
- (c) 現地有効化審査の際は調査団が車両及び通訳の手配及び支払いを行う。

### (3) 入札結果及び契約

ショートリストした3社のうち、TÜV-SÜD Japanは(a)調査団が指定した現地有効化審査時期に審査できない、(b)AEとは価格面で競争できない、という理由から入札を辞退した。他の2社は予定通り5月20日の締切りまでに見積書を提出した。見積書開封の結果JACO CDM社が第一位となり、契約交渉を経て5月22日に有効化審査実施に係わる委託契約を締結した。契約はUNFCCCに対する事業登録申請までを契約業務とし、履行期限は2009年2月28日である。

## 2.3 DOE による PDD デスクレビュー

委託契約締結後JACO CDM社はPDDのデスクレビューを行い、6月中旬までに調査団に対して下記に関するコメント及び資料提出要請をした。調査団はそれぞれに対して概略説明すると共に、インテリムレポート(2)を参考資料として提示した。

- (a) 地元住民がどのような形で事業に参加するかが明確ではない
- (b) 1970年代に森林伐採の引き金となった政府の土地開発政策のコピー提出。
- (c) 実施主体である森林開発基金はベトナムの基金かそれとも外国基金か。
- (d) 土地荒廃に関するデータの有無
- (e) 純人為的GHG吸収算定表の提出

<sup>1</sup> JACO CDM社は第42回CDM理事会(2008年7月31日～8月2日)においてスコープ14のDOEに認定された。

## 2.4 現地有効化審査準備

調査団はカウンターパートと現地有効化審査準備について話し合うために、2008年6月16日～20日の間ベトナムを訪問した。そして、現地有効化審査の詳細スケジュール及び準備の確認、追加資料の収集の依頼を行うと共に、地元住民の参加形態を明らかにするため森林開発基金と参加住民との間の契約書（案）作成に関し合意した。

## 2.5 現地有効化審査

JACO CDM 社は、現地審査に先立ち調査団に対してドラフト有効化審査プロトコルを提出し、2008年7月28日～8月2日まで2名からなる審査チームをベトナムへ派遣し、現地有効化審査を実施した。現地有効化審査の日程は下記の通りである：

表 2.1 現地有効化審査日程

月日	活動内容
2008年 7月28日(月)	<p>ベトナム森林大学会議室において審査チーム、事業参加者（カウンターパート）及び調査団の間でオープニング会議を開催。審査チームはドラフト有効化審査プロトコルを参照しつつ是正措置要求事項および明確化要求事項を説明。その後、事業参加者及び調査団は明確化要求が出された各事項に関する説明と資料提出を行った。</p> 
7月29日(火)	<p>調査団と審査チームはベトナム DNA 事務局を訪問し、DNA による事業認可のプロセス等の確認を行った。</p> 

月日	活動内容
7月30日(水)	<p>審査チームはカオフォン県人民委員会を訪問し副委員長（森林開発基金の Director）らと面会。人民委員会に対する聞き取り調査の後、事業対象地のあるバックフォンコミュニティにてコミュニティ職員及び参加住民代表者への聞き取り調査、現況土地利用、サイト境界線及びベースラインバイオマス調査のサンプルサイト確認等を実施。</p>   

月日	活動内容
7月31日(木)	<p data-bbox="448 248 1401 353">スワンフォンコミュニティにてコミュニティ職員及び参加住民の代表者に対する聞き取り調査、現況土地利用、サイト境界線及びベースラインバイオマス調査のサンプルサイト確認等を実施。</p>   

月日	活動内容
8月1日(金)	<p>ベトナム林業大学会議室にて審査チーム、事業参加者（カウンターパート）及び調査団の間で現地有効化審査結果に関する会議を開催。審査チームは現地審査における暫定的結果と追加的明確化要求事項を説明。事業参加者及び調査団は明確化要求に関して口頭説明を行い、後日関係資料を提出することを約束した。なお、会議終了に当たり、審査チームは現地審査報告書を提出し、審査チーム及び事業参加者の代表がそれぞれ報告書に署名した。</p>  
8月2日(土)	<p>調査団と審査チームは今後の予定等を協議。審査チームは夜の便で帰国の途へ。</p>

## 2.6 DOEによる是正措置および明確化要求事項

### 2.6.1 是正措置要求事項

審査チームから提示された是正措置要求事項および事業参加者/調査団の対応は下記の通りである。審査チームは事業参加者/調査団の対応を受諾した。

CAR (是正措置要求事項)	事業参加者の対応
<b>CAR1</b> ベトナム DNA による森林開発基金（事業参加者）及び事業に対する承認レターが必要。	2008 年 11 月 20 日付のベトナム DNA 発行の承認レターを提出した。
<b>CAR2</b> PDD Table 3 でベトナム政府が PP になっているが、政府にその意思がないため修正すべき（Yes→No へ変更）。また、VFU 及び RCFEE は PP ではないので Table 3 から除外すべき	PDD version 2.1 において修正。
<b>CAR3</b> 登録申請までに CDM 理事会と事業参加者との連絡手順（MOC: Modality of Communication）を作成・提出する必要あり。	2008 年 10 月 7 日付の MOC を DOE へ提出。FDF が CDM 理事会とやりとりを行う唯一のフォーカルポイントである。
<b>CAR4</b> 実施主体である FDF から「事業は Low Income Community によって開発・実施される」という宣言文を取得すべき。	2008 年 11 月 4 日付の declaration letter を DOE へ提出。
<b>CAR5</b> プロジェクト境界線の緯度経度情報を PDD に添付すべき。	FDF は審査チームに対してプロジェクト境界線の全ての緯度経度情報を提出。また、PDD ver.2 の Annex 4 にはプロジェクト境界線の緯度経度情報要約を添付。

注：詳細は英語版最終報告書に添付した有効化審査報告書参照

## 2.6.2 明確化要求事項

審査チームが提示した明確化要求事項は大きく(a) 説明要請と(b) 証拠あるいはデータ提供要請の2つに分類される。多くの明確化要求事項はインテリムレポート(2)の中で説明されているものであった。

下記は PDD の各章毎の明確化要求事項と事業参加者・調査団の対応を要約したものである。審査チームは全ての明確化要求事項に対する事業参加者・調査団の対応を受諾した。

### (1) PDD Chapter A: 小規模 AR-CDM 事業活動の概要説明

CL (明確化要求事項)	事業参加者の対応
<b>CL1</b> 本事業の予算的側面について説明要請。	提供したインテリムレポート(2)にて左記を説明している旨を説明。また、PDD ver.2 の Annex 5 に財務評価の要約を添付。
<b>CL2</b> 2007 年に実施した現地調査、LANDSAT 画像解析、PRA 調査に関する情報提供要請。	提供したインテリムレポート(2)にて左記を説明している旨を説明。



CL (明確化要求事項)	事業参加者の対応
<p><b>CL3</b>                      PDD Annex 3 の貧困住民参加に係わるレターに関する説明要請。</p> <p>(1) 誰が誰に対して発行したものか？                      (2) 文中で参照している法規の内容                      (3) 事業に対する周辺住民の役割</p>	<p>カフキ県人民委員会が不特定関係者に対し発行参照している法規の英訳版を提出。                      周辺住民の役割は事業実施支援である</p>
<p><b>CL4</b>                      PDD A.5.4 節で参照している Decision No.38/2005/QD-BNN(MARD 発行の森林施業に関わる標準技術)の提出要請</p>	<p>審査チームに英訳版を提出。</p>
<p><b>CL5</b></p> <p>(1) 表 A.6.1 と A.6.2 では世帯、協同組合及びコミュニティの数に齟齬がある。確認要請                      (2) 土地利用権証明書のサンプル提供要請                      (3) Communities, communes, cooperative, village, villagers 及び households それぞれの定義及び相違の説明要請                      (4) 林産物及び CER からの便益を事業主と参加住民がどのように分配するのか、事業の持続性の観点からその便益は十分と言えるか、についての説明要請                      (5) 事業主体と参加住民との間の契約書提供要請</p>	<p>表 A.6-1 中の文章を修正し誤解を解消。                      土地利用権証明書のコピー提供                      口頭で説明。改定版 PDD では用語の使用を出来るだけ統一する。                      提供したインテルレポート(2)にて左記を記述している旨を説明。                      契約書ドラフトを提供</p>

注：詳細は英語版最終報告書に添付した有効化審査報告書参照

(2) **PDD Chapter B: ベースライン・モニタリング方法論の適用**

追加性証明に用いた投資障壁の取り扱いに関して審査チームと事業参加者・調査団の間で見解の相違があった(CL9)。審査チームは IRR 等の財務指標を使った説明を求めたのに対して、事業参加者・調査団は『方法論に従うと、財務指標を用いた財務障壁の説明は不要』と主張。審査チームは事業参加者・調査団の主張に理解を示したものの、本件は『観察事項』として取り扱い、両者は『UNFCCC 登録発行チームから要請がある場合に対応する』ことを同意した。

CL (明確化要求事項)	事業参加者の対応
<p><b>CL6</b>                      JICA 調査団が 2007 年に実施したベースラインハイマス調査の結果の提供要請</p>	<p>提供したインテルレポート(2)にて左記を説明している旨を説明。</p>
<p><b>CL7</b>                      牛、水牛の頭数、放牧回数、放牧地の位置に関する調査結果の提供要請</p>	<p>提供したインテルレポート(2)にて左記を説明している旨を説明。</p>

CL (明確化要求事項)	事業参加者の対応
<p><b>CL8</b> 現地調査結果の提供要請</p> <p>PDD B.6 では事業を実施しない場合下記理由によりカーボンのストックが減少すると述べている。それぞれの理由の証明文書の提出要請</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(i) 事業対象地は 1980 年以前に国家政策に沿って森林伐採が行われた</li> <li>(ii) 土壌養分が減少している</li> <li>(iii) 事業対象地では継続的に放牧、薪採取等が行われ、それらがカーボンのストックの減少や土地荒廃に繋がっている</li> </ul>	<p>提供したインテリムレポート(2)にて左記を説明している旨を説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(i) 口頭説明及び資料提出 (PRA 調査によって確認した)</li> <li>(ii) 土壌養分分析結果及び土壌肥沃度評価のクワイテリアを提出</li> <li>(iii) 左記を説明しているインテリムレポート(2)を提供 (社会経済インタビュー調査の結果を使用)</li> </ul>
<p><b>CL9</b> <b>【従前の明確化要求事項】</b> tCER からの収入がなければ下記が成立しないことを証明する財務分析結果の提出要請</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(i) 住民への高いインセンティブ</li> <li>(ii) 事業参加者へのリターンは通常の植林事業から得られるそれと同等である</li> </ul> <p>植林事業を CDM 事業として決定した際の財務指標 (IRR, NPV 他) や国債利率及び銀行貸出利息などのベンチマークの提供要請</p> <p><b>【修正された明確化要求事項】</b> 適用した方法論は投資分析による追加性証明を義務付けていないが、追加性を量的に説明するためには投資分析結果の提出が望ましい。</p>	<p><b>【従前の対応】</b> 承認されている小規模 AR-CDM 方法論では、追加性の証明に使える障壁の一つとして「<u>経済・財務障壁以外の投資障壁</u>」をあげている。方法論に従って、本事業の追加性証明には IRR 等の経済・財務障壁を使っていないため提出できない。PDD B7 に記述する追加性に係わる説明で十分と考える。</p> <p><b>【修正コメントに対する対応】</b> 投資分析の要約を PDD ver.2.1 の Annex 5 として添付</p>
<p><b>CL10</b> 元々本事業が CDM 事業として実施されることを示す証拠 (日付付き文書) 提出依頼。その決定と JICA インテリムレポート (2) の関係の説明依頼。</p>	<p>本調査に関わる S/W 提出。また現地有効化審査時に、本調査は AR-CDM の能力向上のために PDD まで作成することを元々構想していた点を説明。</p>
<p><b>CL11</b> 事業実施に関与する各組織の役割・責任の説明要請</p>	<p>提供したインテリムレポート(2)にて左記を説明している旨を説明。</p>
<p><b>CL12</b> PDD B.8.3 に記載しているモニタリング委員の構成員及び監督者、それぞれの関係についての説明要請</p>	<p>モニタリング委員は県の森林部門スタッフ、参加住民の代表者他によって構成され、監督者はベトナム林業大学が派遣する。構成員はベトナム林業大学のトレーニングを受ける。</p>
<p><b>CL13</b> 緊急事態に対する対処について説明要請</p>	<p>審査チームに提供したドラフト SOP (Standard Operational Procedure) に森林火災予防及び消火活動に関する対処方法が明記されている。</p>

CL (明確化要求事項)	事業参加者の対応
<b>CL14</b> 内部監査、事業活動評価、モニタリング及び報告の精度向上のための行動に関する説明要請	左記は審査チームに提供したドラフト SOP に書かれている。基本的に SOP は IPCC の LULUCF Good Practice Guidance の QA/QC に準拠している
<b>CL15</b> SOP の内容について説明要請 (PDD の B.8.2 では SOP に QA/QC の方法が書かれていると記載されているため)	審査チームに提供したドラフト SOP 参照
<b>C16</b> 現地データ収集及びデータ入力の検証方法に関する説明要請	審査チームに提供したドラフト SOP に検証方法が書かれている。

注：詳細は英語版最終報告書に添付した有効化審査報告書参照

(3) **PDD Chapter C: 純人為的 GHG 吸収量の推定**

CL (明確化要求事項)	事業参加者の対応
<b>CL17</b> 下記に関するデータ提供及び説明要請 (1) SV (幹材積) 及び WD (木材密度) に関する文献 (2) BEF として 1.4 を使っているが、この値は温帯広葉樹の値である。これが適正かどうかの説明 (3) 純植林面積の割合をサイト 1~3 ではサイト面積の 88%、サイト 4~5 では 80%としている理由 (4) 純人為的 GHG 吸収量を算定したスプレッドシートの中でどのように間伐や伐採を考慮しているのか	文献を提供した  事業対象地は亜熱帯である。BEF の既定値としては熱帯及び温帯のものしかなく、過大評価を避けて温帯の値を使った。  現場踏査を基に推定した (専門家の判断)  樹木成長量表及び純人為的 GHG 吸収量算定表を示し、間伐及び伐採を考慮していることを説明した。
<b>CL18</b> 純人為的 GHG 吸収量が conservative に推定されたかどうか説明要請	口頭及び文書にて説明
<b>CL19</b> ベースラインが conservative に推定されたかどうか説明要請  草地-2 のベースライン算定に当たって IPCC GPG の既定値を使っているが、現地調査結果を	IPCC GPG for LULUCF に従い root shoot ratio (R) として草地は 1.58、灌木地は 2.83 を使っているが、我々の調査結果を使うとそれよりも低い値になる。即ち、我々のベースライン算定は conservative に推定されていると言える。  一方、ベースラインはプロジェクト期間中一定と仮定しているが、事業対象地は荒廃を続けているため、この一定という仮定もベースラインを conservative に推定していることになる  地下部のバイオマスを木本と草に分けずに測定したため。また、方法論では IPCC 既定値を使う

CL (明確化要求事項)	事業参加者の対応
使用しなかった理由は何か？	ことが測定値を使うよりも conservative である場合、IPCC 既定値の使用を求めているため。

注：詳細は英語版最終報告書に添付した有効化審査報告書参照

(4) **PDD Chapter D: 事業の環境影響**

CL (明確化要求事項)	事業参加者の対応
<b>CL20</b> PDD の D.2 に「ベトナム環境法規では 1000ha 以下の植林事業では EIA 実施の必要なし」と書かれている。該当する法規の提供要請	Decree No.80/2006 のコピーを審査チームへ提供

注：詳細は英語版最終報告書に添付した有効化審査報告書参照

(5) **PDD Chapter F: ステークホルダーのコメント**

CL (明確化要求事項)	事業参加者の対応
<b>CL21</b> ベトナムの法規ではステークホルダー会議が必須になっているかどうかの確認要請	ステークホルダー会議は EIA の一部として実施が義務付けられている。また、Decree No.79/2003/ND-CP (コミュンにおける民主的手続きに関する法規) の中でもステークホルダー会議開催が必要とされている

注：詳細は英語版最終報告書に添付した有効化審査報告書参照

**2.7 ベトナム DNA による事業承認**

CDM に関するベトナムの規則によると、事業参加者はベトナム DNA から小規模 AR-CDM 事業の承認を受けるため、PDD と下記資料（共に英文・越文各 17 部）を DNA へ提出する必要がある。

- (a) 事業実施者からの承認要請レター
- (b) 事業を管轄する関係省庁、セクター、人民委員会からの事業検討・承認に係わる要請レター
- (c) 県人民委員会等事業に関係する組織の事業に関するコメント
- (d) 省人民委員会発行の Environmental protection commitment

本事業の場合、2008 年 4 月に設立が認可された森林開発基金（Decree No.148/2007/ND-CP に基づく社会基金）が事業参加者/事業実施者となる。本基金は 2008 年 9 月 1 日に PDD 及び必要資料を DNA 事務局へ提出し事業承認申請を行った。また、同基金は 11 月 8 日に開催された CDM 事業審査のための NSC (National Steering Committee) 会議において事業説明を行い、事前に DNA から出されたコメント（下記）に対する返答も行った。そして、PDD の部分的改定とコメントに対する説明レターを DNA 事務局へ提出した結果、DNA は 2008 年 11 月 20 日付で FDF に対して事業承認レターを発行した。



2008年11月8日に開催されたNSC会議においてDr. Hoanが事業説明を行った。

(Dr. Hoanは本調査のProject Director/ベトナム林業大学副学長であり、かつFDFの管理委員会のHeadでもある)

PDD に対する DNA のコメント	コメントに対する FDF の対応
PDD セクション B.6 (ページ 24) : ページの算定方法について説明せよ。	算定方法は UNFCCC 承認の方法論を使用しており、それを DNA へ提出した。
PDD セクション B.7 (ページ 25) : 事業の財務分析データを追記せよ (CDM 事業である場合と無い場合)	PDD version 2.0 の Annex 5 として事業の財務分析データを添付した。
PDD セクション A11 : PDD は本事業実施に ODA 資金を使うと述べている。ODA 資金を使う場合、CER 売却益は MOF/MONRE joint Circular No. 58/2008/TTLT-BTC-BTN のセクション I、アイテム 3 に従って管理しなければならない (売却に要した費用を差し引き、ベトナム環境基金へ拠出)。	FDF から DNA に宛てたレターの中で「事業実施に ODA 資金は使わない」旨を説明した。(ベトナム語版 PDD の翻訳間違いのために誤解を招いた)
Environmental protection commitment の中で「苗作りとその輸送」が不明確。また、苗作りによる環境影響が明記されていない。一方、農薬使用の環境影響は記述しているものの、使用後の農薬袋の適切な処置について書かれていない。さらに、森林火災のリスク及び防止方法については明確に記述すべき。	FDF から DNA に宛てたレターの中で「本事業では農薬は使用しない」こと、「PDD では重大な負の環境影響のみ記述することになっているため、森林火災等は記述していない」ことを説明した。森林火災については SOP (Standard Operational Procedures : 標準手順書) に防止策などを明記しているため、それを提出。
植林木は 15 年で伐採されるにもかかわらずクレジット期間は 16 年間になっている。クレジット期間が正しいかどうか確認すべき。	FDF から DNA に宛てたレターの中で 16 年間のクレジット期間が適切であることを説明した。
PDD セクション A.3 : ホンダベトナムが投資者でありながら CDM 事業の参加者になっていないことを説明せよ。	FDF から DNA に宛てたレターの中で「ホンダベトナム社は事業実施資金を寄付するだけであり、リターンを期待する投資家ではなく、参加者でもない」ことを説明した。

PDD に対する DNA のコメント	コメントに対する FDF の対応
CDM 事業の参加者として、地元住民からの追加コミットメントを得るべき。	FDF から DNA に宛てたレターの中で「地元住民は植林活動に参加するものの、『CDM 事業の参加者』ではない」ことを説明した。
ベトナム語版 PDD では翻訳間違い、未翻訳の単語、ミススペル、単位記号の間違いが散見される。	翻訳間違い等を修正する。

## 2.8 UNFCCC に対する CDM 事業登録申請

調査団は 2008 年 11 月中旬に DOE である JACO CDM 社からドラフト有効化審査報告書を受領。同報告書は本事業の CDM 事業登録を勧告していた。一方、事業参加者は JACO CDM 社に対して事業登録申請に必要な MOC（連絡手順）と DNA 承認レターを送付。JACO CDM 社は有効化審査報告書の最終化をおこない、2009 年 1 月 9 日に UNFCCC 事務局へ事業登録申請を行った。

## 2.9 有効化審査から得られた AR-CDM 事業形成に係わる教訓

### (1) PDD の記述は出来るだけシンプルに

DOE は PDD のあらゆる記述を確認する必要がある。DOE からの明確化要求事項を減らすと共に彼らに疑問を抱かせないために、PDD は各要求事項を満足させつつ出来るだけ記述をシンプルにすべき。

### (2) プロジェクトのフィージビリティ調査報告書作成

事業参加者及び開発者は PDD 以外にプロジェクトフィージビリティ調査報告書を作成し、調査で実施した現地調査の詳細な方法と分析結果、技術・財務面の分析結果を残しておくべき。同報告書は DOE からの明確化要求事項を説明する際に非常に役に立つ。

### (3) 出来るだけ方法論に載っている既定値を使う

一般的に自然環境に関する各種調査結果は、現場状況が一樣でないため科学的・統計学的に正しい値かどうかを証明するのが困難である。DOE は PDD で用いている各種値が科学的・統計学的に適正かどうかを判断する必要がある。但し、方法論に載っている既定値については DOE が判断する必要がある。従って、DOE からの明確化要求と事業形成コスト（現場調査費用）を減らすために、出来るだけ方法論に載っている既定値を使うべき。

### (4) 各種値を保守的に算定する

保守的算定は CDM 事業の重要な要求事項の一つであり、DOE も各種値が保守的に算定されているかどうかを必ずチェックする。従って、事業参加者及び開発者は各種算定に当たり常に「保守的算定」を念頭に置き、保守的算定の部分を記録すべき。

(5) 関係法規及び文献の収集及びファイリング

事業参加者及び開発者は、DOE からの参照法規及び文献の提出要請に備えて事業形成時に参照したそれらをファイルしておくべきである。また、重要と思われる法規・文献については必要部分だけでも前もって英訳しておくことと有効化審査時に慌てて翻訳する手間を省くことができる。

(6) 土地適格性、追加性及び貧困住民の参加の証明には細心の注意を払う

これらは DOE が必ず詳細な証明と証拠提示を求めてくる部分であるため、証明と証拠収集には細心の注意を払うべきである。

例えば、『参加住民が貧困であること』の証明としては、一人当たりの月間収入を基にした貧困クライテリアの使用が考えられる。しかし、『貧困』となる収入額はかなり低く、そのクライテリアを用いると貧困と考えられる農村部であっても貧困とならない可能性が出てくる。また、参加者各人が貧困でなければならないのか、あるいはグループの平均として貧困であれば良いのかについて明確になっていない。さらに、その収入額のクライテリアを使うために家計調査を行う必要があるが、家計調査は手間がかかりかつ農民は概して自分の収入を正確に把握していないため調査結果の正確性にも難がある。本パイロット事業の有効化審査では、『参加住民が貧困であること』の証明として、「ベトナム投資法に係わる法令 108 号（2006 年）及び関連決議の中で、プロジェクト対象県及びコミューンが『社会経済条件が困難な地域』に指定されている」ことを根拠とした。

(7) AE による有効化審査費用は安い（一般論）

調査団は 2008 年 5 月に入札で最低価格を提示した JACO CDM 社と有効化審査実施に係わる契約を締結した。JACO CDM 社は契約時点ではスコープ 14（植林・再植林）の AE にすぎない（2008 年 8 月の CDM 理事会で DOE の認定を受けている）。AE の活動内容は有効化審査までに止まり、事業登録申請は CDM 理事会の認定を受けた DOE でなければ出来ないが、一般的に DOE に比べて AE は有効化審査費用が安いこと、事業登録を急がない場合には、価格の安い AE を使うという選択肢は魅力的と言える。

## 第3章 環境社会配慮

### 3.1 環境社会配慮に関連するベトナム国の法制度

#### (1) 環境社会配慮に関連するベトナム国の法律

- 1) 法令 80 号 (2006 年 8 月) : 新環境保護法 (2006 年) 施行に係わる詳細を規定。同法令は Appendix I として EIA 報告書を作成しなければならないプロジェクトを事業カテゴリ一及び事業規模毎に詳細に示している。

本法令によると、規模が 1000ha 以下の植林及び森林管理事業は EIA 報告書を作成する義務がない。但し、事業主は「環境保全に係わる誓約書 (Environmental Protection Commitment)」を県人民委員会に提出し、事業開始前までに同人民委員会から誓約書受領に係わる「証明書」を受取る必要がある、と明記されている。

- 2) ベトナム環境基準(TCVN) : 旧環境保護法 (1993 年) に基づき制定された環境基準。現在、多くの基準が見直し中。
- 3) 環境影響評価報告書作成及び評価に係わるガイドライン : 15 セクターを網羅。新環境保護法 (2006 年) 施行により、現在見直し中。
- 4) 法令 197 号 (2004 年) : 事業実施により移転が必要となった場合の補償及び支援について規定。
- 5) 歴史・文化・景観保全に係わる布告 (1984 年)

#### (2) 環境社会配慮に関連する政府機関

表 3.0 に示す大規模で環境影響の大きい事業の EIA 報告書は天然資源環境省 (MONRE) が評価・承認を行い、それ以外の事業の EIA 報告書は各省の天然資源環境局 (DONRE) が評価・承認を行っている。

表 3.0 MONRE が EIA 報告書の評価・承認を行うプロジェクト

1.	国立公園や自然保護地域、生物圏の保護地域、世界遺産、歴史・文化遺跡を利用するプロジェクト
2.	原子力発電所と熱核発電所、原子炉プロジェクト
3.	出力が 300~500MW で、都市中心部と住宅地域から 2km 以内の火力発電所。また、出力が 500MW 以上の火力発電所
4.	100,000,000 m <sup>3</sup> 以上の貯水池を持つ水力発電所や灌漑施設、もしくは 2 省 (province) 以上と中央直轄特別市の表層水と地下水の供給に影響を与えるプロジェクト
5.	20ha 以上の水源涵養林や防波林、海岸の進均作用の防止林、特定の目的のためにある林を破壊するプロジェクト。もしくは 200ha 以上に及ぶその他の自然森林を破壊するプロジェクト
6.	100ha 以上の内陸養殖場
7.	年産 20,000 トン以上の石油化学精製所 (塩基化学や植物保護剤、界面活性剤、添加剤、化学肥料)、年間の設計出力が 300,000Wh 以上の変圧器プラント、年産 1,200,000 トン以上のセメントプラント、放射性物質やその排出を伴うプラントや作業場
8.	石油とガス開発、年間 500,000 m <sup>3</sup> 以上の固形鉱物開発、放射性金属と希土類の開発、1 日 (per day and night) 50,000 m <sup>3</sup> 以上の地下水開発、1 日 (per day and night) 500,000 m <sup>3</sup> 以上の表層水開発
9.	200ha 以上の工業区や輸出加工区、新技術産業区、産業クラスター、観光と娯楽リゾートでのインフラストラクチャー建設、載貨重量トン数 50,000DWT 以上の船舶が停泊できる港の建設、年産 300,000 トン以上の鉄と鋼精錬所
10.	危険廃棄物の再加工と処理、埋め立て
11.	上記 1 から 10 のうち、一つ以上の要素を含むプロジェクト
12.	EIA 報告書作成が必要となるプロジェクトのうち、2 省 (province) 以上にまたがり、また中央直轄特別市で実施するもの

出典 : Decree No.80/2006/ND-CP Appendix II



(3) 事業主の責任

事業主はEIA 報告書を作成し MONRE/DONRE へ提出する義務がある。また、事業主は住民移転、補償、土壌汚染などに対する全ての責任を負う。

3.2 環境社会配慮

3.2.1 小規模 AR-CDM パイロット事業の概要

本調査で形成した小規模 AR-CDM パイロット事業の概要は表 3.1～3.3 に示す通りである。

表3.1 プロジェクト対象地の現況土地利用

土地利用	階層 No	面積 (ha)					合計
		スワンフォンコミュニティ			バックフォンコミュニティ		
		サイト 1	サイト 2	サイト 3	サイト 4	サイト 5	
草地 1	1	10.37	64.07	23.14	15.19	10.81	123.58
草地 2	2	0.00	0.00	0.00	26.52	73.47	99.99
草地 3	3	0.00	0.00	9.81	2.36	0.00	12.17
灌木地	4	7.90	8.57	67.78	19.88	0.73	104.86
農地	5	0.00	0.86	0.00	1.25	4.96	7.07
裸地	6	5.23	0.00	5.90	6.46	0.00	17.59
合計		23.5	73.5	106.63	71.66	89.97	365.26

草地 1: Co lao (Eupatorium odoratum)及び Co trang (Imperata cylindrica)が優勢の草地

草地 2: Te gout (Dicranopteris linearis) が優勢の草地

草地 3: Lao lach (Erianthus arundinaceus) が優勢の草地

灌木地: Melastoma candidum with Rhodomyrtus tomentosa, Randia dasycarp etc.

農地: 焼畑によって一時的にキャッサバ、トウモロコシ、サウキビなどが栽培されている土地

出典：JICA 調査団

表3.2 小規模AR-CDMパイロット事業の概要

植林デザイン	Acacia mangium:	植栽密度 1,600 本/ha ; 15 年ローテーション ; 8 年目に 50%を間伐		
	Acacia auriculiformis:	植栽密度 2,000 本/ha ; 15 年ローテーション ; 8 年目と 12 年目にそれぞれ 21%、33%を間伐		
純植林面積 (ha)		1 年目	2 年目	合計
	Acacia mangium:	140.2 ha	140.2 ha	280.4 ha
	Acacia auriculiformis:	-	28.1 ha	28.1 ha
	合計	140.2 ha	168.3 ha	308.5 ha
植林以外の計画	飼料作物生産	プロジェクトエリア外において合計約 30 ha を希望する農家が栽培。放牧による植林木のダメージを減少させ、家畜飼育を行っている農家の収入安定が目的。		
	普及・展示活動	植林及び森林管理、作物残渣の飼料利用等に係わる技術普及及び展示		
	バイオスタック設置促進	薪採取による森林荒廃防止、薪採取労力の削減が目的。参加住民が事業実施によって受取る経済的インセンティブ（労賃）を使い、県が推進中のバイオスタック設置を行うよう奨励する。		

注： 当事業は林道建設などのインフラ建設を行わない。

表 3.3 世帯当たりの期待便益

	資材供給 (百万 VND)		現金収入 (百万 VND)		
	植林活動	飼料作物生産	植林及び維持管理	森林便益の分取	炭素クレジットの分取
1～5 年目	1.71	1.40	3.11	-	-
6～10 年目	-	-	-	5.90	0.28
11～17 年目	-	-	-	48.89	2.91
合計	1.71	1.40	3.11	54.79	3.19
	3.14		61.09		

注: 上記は 1 世帯が 1.0ha の植林と 0.1ha の飼料作物栽培を行った場合の期待便益。

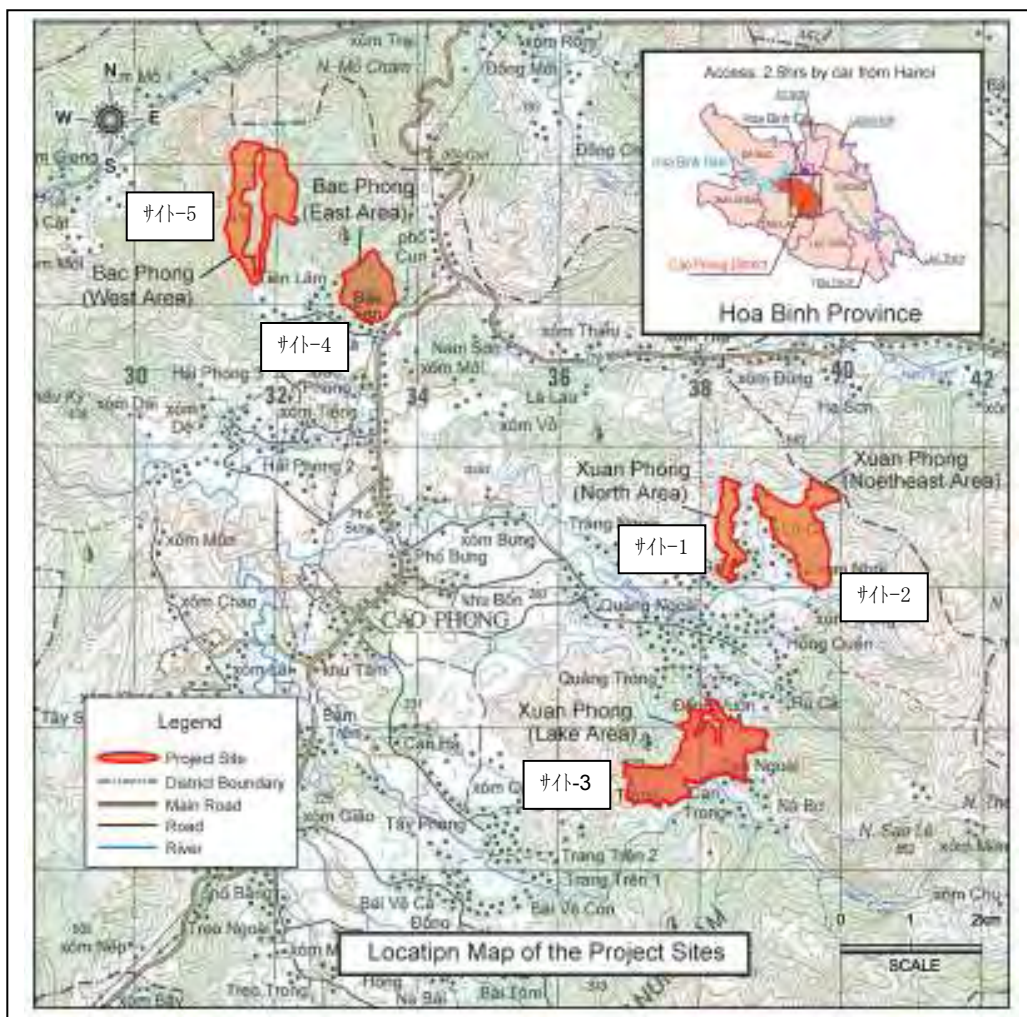


図 3.1 小規模 AR-CDM パイロット事業位置図

### 3.2.2 小規模 AR-CDM パイロット事業に対する環境社会配慮

UNFCCC ガイドライン<sup>1</sup>では、小規模 AR-CDM 活動に関して事業参加者(事業主)は『ホスト国の制度に従って環境影響評価と社会影響評価を実施する』ことになっている。小規模 AR-CDM パイロ

<sup>1</sup> Guideline for Completing the Simplified Project Design Document for Small Scale AR (CDM-SSC-AR-PDD) and the form for Submissions on Methodologies for Small-Scale AR-CDM Project Activities (F-CDM-SSC-AR-Subm)

ット事業は事業規模が 1000ha 以下であるため、ベトナム国の法令 80 号（2006 年）に従い EIA 報告書の作成義務は無い。しかし、法令に基づき事業主は「環境保全に係わる誓約書 (Environmental Protection Commitment)」をカオフォン県人民委員会に提出し、既に証明書 (certificate) を受領しなければならない(事業主である FDF は 2008 年 4 月これを受領済み)。

本調査はもともと AR-CDM に係わる「能力向上」活動が主目的であり、調査を通じて事業形成を行う予定はなく、事前調査段階においても環境社会配慮に係わるスクリーニングおよびスコーピングは実施されていない。しかしながら、調査開始後、調査団支援の下でパイロット事業を形成。その後、カウンターパートを中心として設立する NPO がホンダベトナム社からの資金を得てパイロット事業を実施することとなった。このため、調査団は JICA 環境影響配慮ガイドラインに従い小規模 AR-CDM パイロット事業の実施による環境・社会経済インパクトに関して予備的スコーピングを行い、それぞれのインパクトの程度についても評価を行った。

### 3.2.3 小規模 AR-CDM パイロット事業の実施による環境・社会経済影響の評価

予備的スコーピング結果と各影響の評価は表 3.4 及び表 3.5 に示す通りである。それら結果から、小規模 AR-CDM 事業の実施により環境及び社会経済面で著しい負の影響は起きず、逆に植林事業の実施による環境保全、参加住民の収入向上といった多くの正の影響が見込まれることが明らかとなった。植林事業の場合、森林火災の発生が懸念されるが、本事業では地域住民に対して啓蒙普及活動を行い火災予防に努めるため、リスクは最小化される。なお、調査の最終段階である 2007 年 10 月に開催したステークホルダー会議において、全てのステークホルダーが事業の実施に同意しており、住民の反対は皆無であった (Interim Report (2) 5.3.6 節参照)。

表 3.4 事業活動による環境社会影響 (スコーピング結果)

	項目	総合評価	プロジェクト活動						
			草刈	地拵え	施肥	植林	維持管理	間伐	伐採
社会環境	非自発的住民移転	-	-	-	-	-	-	-	-
	地域経済	+A	+A	+A	+A	+A	+A	+A	+A
	土地利用や地域資源利用	-B	-B	-	-	+B	+B	+B	+B
	社会関係資本や地域の意思決定機関等の社会組織	-	-	-	-	-	-	-	-
	既存の社会インフラや社会サービス	-	-	-	-	-	-	-	-
	貧困層・先住民族・少数民族	+A	+A	+A	+A	+A	+A	+A	+A
	被害と便益の偏在	-	-	-	-	-	-	-	-
	文化遺産	-	-	-	-	-	-	-	-
	地域内の利害対立	-	-	-	-	-	-	-	-
	水利用及び水利権	-	-	-	-	-	-	-	-
	衛生	-	-	-	-	-	-	-	-
自然環境	HIV/AIDS 等の感染症	-	-	-	-	-	-	-	-
	地質・地形	-	-	-	-	-	-	-	-
	土壌浸食	-B	-	-B	-	+B	+B	+B	+B
	地下水	+B	-	-	-	-	+B	+B	+B
	水文・水理	+B	-	-	-	-	+B	+B	+B
	沿岸水域	-	-	-	-	-	-	-	-
	動植物相・生態系	+B	-	-	-	+B	+B	+B	+B
気象	-	-	-	-	-	-	-	-	
景観	+B	-	-	-	+B	+B	+B	+B	

	項目	総合評価	プロジェクト活動						
			草刈	地拵え	施肥	植林	維持管理	間伐	伐採
	地球温暖化	+C	-	-	-	+B	+B	-B	-B
汚染・事故	大気汚染	-	-	-	-	-	-	-	-
	水質汚濁	-	-	-	-	-	-	-	-
	土壌汚染	-	-	-	-	-	-	-	-
	廃棄物	-	-	-	-	-	-	-	-
	騒音・振動	-B	-	-	-	-	-	-B	-B
	地盤沈下	-	-	-	-	-	-	-	-
	悪臭	-	-	-	-	-	-	-	-
	低質	-	-	-	-	-	-	-	-
	事故	-C	-C	-	-	-C	-C	-C	-C

注 釈  
 ランク "A": 環境への顕著な影響が予測される  
 ランク "B": ある程度の影響が予測される (+: ポジティブな影響、 -: ネガティブな影響)  
 ランク "C": 今のところ環境への影響は不明である  
 "-": 影響は予測できない

表 3.5 自然・社会環境影響の詳細及び軽減策

項目	総合評価	概要	軽減策及びモニタリング方法
地域経済	+A	事業実施により参加住民はインセンティブ（報酬）、林産物の売却収入、炭素クレジットの売却収入を得ることができ、農家収入の向上に寄与する。	-
土地利用や地域資源利用	-B	事業実施（植林）によって土地資源の有効利用が図られる。ただし、事業対象地域内に分散している合計約 7ha の農地における作物耕作を中止しなければならないことが負の影響とも考えられる。  しかし、対象農地は「生産林地」として区分され、造林を前提に政府から住民に対して土地利用権が付与されている。森林保全開発法（2004年）によると、林地を当初目的（造林）に利用しない場合は、政府が住民へ付与した利用権を剥奪できることになっている。また、この耕作地では約 15 世帯の農民が焼畑による生産性の低い非持続的な単年度耕作を行っているに過ぎず、当該農民も農地の生産性が低いため本プロジェクトによる造林を希望しており、耕作中止に合意し、補償要求もない。プロジェクト側から AR-CDM 事業実施によって期待される経済的便益及び環境に及ぼす効果を具体的に説明した結果、当該農民が納得したものである。	
被害と便益の偏在	-	事業対象地の土地利用権は地元の世帯に分与されている。各世帯は各自の土地から得られる便益を享受することになる。	住民へのインセンティブ 支払い及び便益の分取は事業主体が管理するためモニタリング可能。社会経済状況についても 5 年毎の AR-CDM 事業検証の際に評価する。

項目	総合評価	概要	軽減策及びモニタリング方法
貧困層・先住民 族・少数民族	+A	参加住民の約 90%が少数民族(Muong, Dao and Thai 族)である。事業実施は彼らの収入改善につながる。	-
土壌浸食	-B	土壌浸食に係わる影響は正負両方予想できる。植林前の地拵えや伐採時には地面表層が攪乱され、土壌浸食を誘発する可能性がある。しかし、それは一時的なものであり、植林によって地面の覆いができることによる土壌浸食抑制効果のほうが高いと予想される。なお、本事業では林道建設は行わず、それによる土壌浸食はない。	参加住民に対し、必要以上に表土攪乱をしないよう指導する。土壌浸食の程度は目視によって 5 年ごとにモニタリング・評価を行う。
地下水	+B	裸地、草地及び灌木地を森林へ転換することによって、地下水涵養が図られる。但し、事業規模が小さいため影響は限定的であろう。	-
水文・水理	+B	事業地区の植林によって水源涵養能力が高まり、下流域への水資源供給能力が高まる。但し、事業規模が小さいため影響は限定的であろう。	-
動植物相・生態系	+B	裸地、草地及び灌木地を森林へ転換することによって鳥類を含む小動物の生息域が拡大する。但し、事業規模が小さいため影響は限定的であろう。	-
地球温暖化	+C	事業実施期間中、約 42,645 トンの二酸化炭素が固定される（純吸収量）。	5 年毎に実施する AR-CDM 事業の検証時に確認する。
景観	+B	裸地、草地、灌木地から森林へと景観が改善する。	-
水質汚濁	-	施肥による水質汚濁の可能性を否定できないものの、施肥量は基肥及び追肥共に NPK 比率 5-10-3 の肥料を苗 1 本当たり 100g と少ないため、影響は殆どないと考えられる。	-
土壌汚染	-	同上	-
騒音・振動	-B	間伐及び伐採時のチェンソー使用による騒音発生が考えられるが、殆どの植林地は集落から距離があるため問題にはならないと予想される。（集落近くであっても、木は騒音を遮断する効果があるため緩和される）	騒音の苦情が出た場合には、間伐・伐採活動の時間制限などの対策を行う。
事故	-C	植林前の草刈、植林、間伐及び伐採、木材運搬時に、不注意及び機材の誤使用によって事故が発生する可能性あり。また、森林火災の可能性もある。	事業主が参加住民に対して各作業の技術的指導を行う際に、事故防止のための注意点も説明する。森林火災に関しては、政府規則に従って各集落に消火グループを結成し、毎年森林火災防止に係わる啓蒙活動や消火訓練を行う。

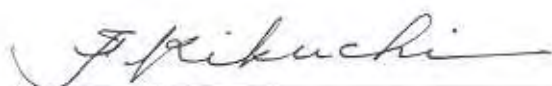
別添-1

実施細則 (S/W)

実施細則協議議事録 (M/M)

**SCOPE OF WORK  
FOR  
THE STUDY  
ON  
CAPACITY DEVELOPMENT FOR AR-CDM PROMOTION  
IN  
THE SOCIALIST REPUBLIC OF VIETNAM  
AGREED UPON BETWEEN  
MINISTRY OF AGRICULTURE AND RURAL DEVELOPMENT  
AND  
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY**

Hanoi, 5 July 2006



---

Mr. Fumio Kikuchi  
Resident Representative  
JICA Vietnam Office  
Japan International Cooperation Agency



---

Mr. Nguyen Ngoc Binh  
Director General  
Department of Forestry  
Ministry of Agriculture and Rural Development



---

Ms. Hoang Thi Dzung  
Deputy Director General  
International Cooperation Department  
Ministry of Agriculture and Rural Development



---

Mr. Ho Quang Minh  
Director General  
International Economic Relations Department  
Ministry of Planning and Investment

## **I. INTRODUCTION**

In response to the official request of the Government of the Socialist Republic of Vietnam (hereinafter referred to as "the Government of Vietnam"), the Government of Japan decided to conduct the Study on Capacity Development for AR-CDM Promotion (hereinafter referred to as "the Study") in accordance with the Agreement on Technical Cooperation between the Government of Japan and the Government of Vietnam signed on October 20, 1998 (hereinafter referred to as "the Agreement").

Accordingly, the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), the official agency responsible for the implementation of the technical cooperation programs of the Government of Japan, will undertake the Study in close cooperation with the authorities concerned of the Government of Vietnam.

The present document sets forth the Scope of Work with regard to the Study.

## **II. OBJECTIVE OF THE STUDY**

The objective of the Study is to support government organizations concerned to develop their capacity for promotion of AR-CDM (Afforestation and Reforestation Project Activities under the Clean Development Mechanism) in Vietnam.

## **III. STUDY AREA**

The Study will cover the entire area of Vietnam.

## **IV. SCOPE OF THE STUDY**

In order to achieve the objective mentioned above, the scope of the Study will consist of the following items:

1. Awareness raising for AR-CDM promotion
  - (1) for the government organizations to enhance their knowledge on AR-CDM,
  - (2) for relevant organizations relating to AR-CDM promotion in Vietnam,
  - (3) for potential investors and project developers, and
  - (4) for the public through a website.
2. Support for establishment of AR-CDM promotion system in Vietnam including the provision of necessary information and services
  - (1) to clarify the roles and responsibilities of relevant agencies,
  - (2) to consider the feasible and appropriate system of provision of necessary information and services to develop an AR-CDM project for those who are interested in AR-CDM, and
  - (3) to support to realize the establishment of the system.

Py F nb  
Baal



3. Support for capacity development on a small-scale AR-CDM project formulation
  - (1) to study the procedure of developing a project design document (hereinafter referred to as "PDD"),
  - (2) to clarify the roles and responsibilities of relevant organizations,
  - (3) to select an appropriate area and to explain the purpose and contents of the AR-CDM project to be developed by the Study to potential project participants,
  - (4) to develop a draft of new baseline and monitoring methodologies for the project,
  - (5) to demonstrate additionality for the project,
  - (6) to analyze economic, social and environmental impacts of the project, and
  - (7) to formulate a draft of PDD for the project.

## V. STUDY SCHEDULE

The Study will be carried out for a period of approximately eighteen (18) months, in accordance with the tentative schedule as attached in the Annex I.

## VI. OUTPUTS

### 1. Reports

JICA shall prepare and submit the following reports in English to the Government of Vietnam.

#### (1) Inception Report:

Twenty (20) copies at the commencement of the Study

This report will describe items such as study schedule, methodology and manning schedule.

#### (2) Interim Report:

Twenty (20) copies at the appropriate time during the Study period

#### (3) Draft Final Report:

Twenty (20) copies toward the end of the Study

The Government of the Vietnam shall submit their comments within one (1) month after the receipt of the Draft Final Report.

#### (4) Final Report:

Thirty (30) copies (within one (1) month after the receipt of the comments on the Draft Final Report)

This report will include analysis of the results, lessons learned, action plan and recommendations to promote AR-CDM in Vietnam.



## 2. Other Outputs of the Study

Besides the reports mentioned above, the following outputs will be produced as the results of implementation of the Study.

- (1) A guidebook concerning necessary information for AR-CDM project developers and/or investors,
- (2) A website containing necessary information and services in relation to development of AR-CDM project in Vietnam,
- (3) A draft of PDD for a small-scale AR-CDM project, and
- (4) A draft of new baseline and monitoring methodologies for the project.

## VII. UNDERTAKING OF THE GOVERNMENT OF VIETNAM

1. The Government of Vietnam shall accord privileges, exemptions and other benefits to the Japanese Study Team (hereinafter referred to as "the Team") in accordance with the Agreement.
2. The Government of Vietnam shall bear claims, if any arises, against the members of the Team resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with, the discharge of their duties in the implementation of the Study, except when such claims arise from gross negligence or willful misconduct on the part of the members of the Team.
3. The Ministry of Agriculture and Rural Development (hereinafter referred to as "MARD") of the Government of Vietnam shall act as a counterpart agency to the Team and also as a coordinating body in relation with other relevant organizations for the smooth implementation of the Study.
4. MARD of the Government of Vietnam shall, at its own expense, provide the Team with the followings, in cooperation with other organizations concerned:
  - (1) Security-related information on as well as measures to ensure the safety of the Team,
  - (2) Information on as well as support in obtaining medical service,
  - (3) Available data (including maps and photographs) and information related to the Study,
  - (4) Counterpart personnel,
  - (5) Suitable office space with necessary equipment, and
  - (6) Credentials or identification cards.

## VIII. UNDERTAKING OF JICA

For the implementation of the Study, JICA shall take the following measures:

1. to dispatch, at its own expense, the JICA Study Team to Vietnam, and



2. to pursue technology transfer to promote AR-CDM activities in Vietnam in the course of the Study .

#### **IX. CONSULTATION**

JICA and MARD shall consult with each other in respect of any matter that may arise from or in connection with the Study.


# TENTATIVE SCHEDULE

Month	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
Study in Japan	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					<input type="checkbox"/>								<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>
Study in Vietnam																			
Reports		Ic/R					I/R									DF/R			F/R

<Remarks>

Ic/R Inception Report

It/R Interim Report

DF/R Draft Final Report

F/R Comments on the Df/R by the Government of Vietnam

Final Report

Annex 1

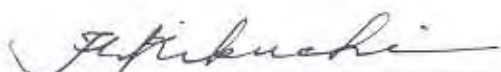



**MINUTES OF MEETINGS**  
**ON**  
**THE STUDY ON CAPACITY DEVELOPMENT FOR AR-CDM PROMOTION**  
**IN**  
**THE SOCIALIST REPUBLIC OF VIETNAM**  
**AGREED UPON BETWEEN**  
**MINISTRY OF AGRICULTURE AND RURAL DEVELOPMENT**  
**AND**  
**JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY**

The Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") had a series of discussion with the Ministry of Agriculture and Rural Development (hereinafter referred to as "MARD") of the Government of the Socialist Republic of Vietnam as well as other relevant agencies for the purpose of working out the details of Scope of Work (S/W) for the Study on Capacity Development for AR-CDM\* Promotion in Vietnam (hereinafter referred to as "the Study").

As a result of the discussions, JICA and MARD agreed upon the S/W for the Study. The main issues discussed by both sides in relation to the S/W are shown in the document attached hereto.

Hanoi, 5 July 2006



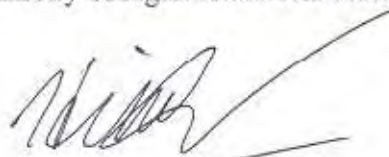
Mr. Fumio Kikuchi  
Resident Representative  
JICA Vietnam Office  
Japan International Cooperation Agency



Mr. Nguyen Ngoc Binh  
Director General  
Department of Forestry  
Ministry of Agriculture and Rural Development



Ms. Hoang Thi Dzung  
Deputy Director General  
International Cooperation Department  
Ministry of Agriculture and Rural Development



Mr. Ho Quang Minh  
Director General  
International Economic Relations Department  
Ministry of Planning and Investment

\* Afforestation and Reforestation Project Activities under the Clean Development Mechanism

Attached Document

## **1. Capacity Development for Formulation of an AR-CDM Project**

Both sides agreed that the most effective way to develop necessary capacity is provision of actual experience through the implementation of the Study in collaboration with the relevant agencies under the leadership of MARD. Both sides also confirmed that the formal approval of a draft of new baseline and monitoring methodologies and a draft of a project design document (hereinafter referred to as "PDD") developed by the Study would be subject to the decision by the Clean Development Mechanism (hereinafter referred to as "CDM") Executive Board, therefore the approval as a CDM project is not necessarily assured within the Scope of the Study.

## **2. Organizational Structure for the Study**

Both sides confirmed that the cooperation among relevant agencies is necessary for implementation of the Study and therefore, MARD takes responsibility to coordinate those agencies and to establish the following organizational structure for implementation of the Study, as attached in the Annex 1.

### **2-1. Establishment of Steering Committee**

A Steering Committee will be established to take responsibility for supervising the project implementation and administration as soon as the Study commences.

The Steering Committee will be chaired by the Leader of the Department of Forestry (hereinafter referred to as "DOF") of MARD and necessarily comprise representatives from DOF, International Cooperation Department (ICD), Viet Nam Forestry University (hereinafter referred to as "VFU"), Forest Science Institute of Vietnam (FSIV) and others concerned of MARD, the Ministry of Planning and Investment (MPI), the Ministry of Finance (MOF), the Ministry of Natural Resources and Environment (MONRE), JICA Vietnam Office and the JICA Study Team. The chairperson of the Steering Committee invites other relevant institutions and/or personnel to the Committee as observers when necessity arises.

The Steering Committee meets at the beginning of the Study to analyze and approve the inception report as well as before the termination of the Study to review progress and results of the Study. The Steering Committee can be called when necessity arises.

### **2-2. Establishment of Standing Unit**

A Standing Unit will be established in DOF to assist the Steering Committee in providing advises and directions to implementation of the Study and to take responsibility for bringing a mutual consensus among different stakeholders.

Meetings among the Standing Unit, Counterpart Team and JICA Study Team, will be held in every two weeks periodically and can be held when necessity arises. The Standing Unit invites other relevant organizations and/or personnel to the meetings when necessity arises.

Handwritten signatures and initials in blue ink at the bottom right of the page. There are three distinct marks: a large signature on the left, a smaller signature in the middle, and a set of initials on the right.

### **2-3. Counterpart Personnel and Counterpart Team**

MARD assigns counterpart personnel, composed of a Director, a Coordinator and other members from relevant organizations to organize Counterpart Team as soon as possible.

Under the supervision of the Steering Committee, the Leader of VFU will serve as the Director of the Study and bear overall responsibility for the administration and implementation of the Study. The Director of the Study will appoint a Coordinator of the Study who is to supervise daily operation of the Study, assisting the Director and making necessary arrangement and coordination for the smooth implementation of the Study.

Counterpart Team will jointly work with the JICA Study Team, because the Study will be implemented in cooperation of both sides.

### **2-4. Expenses for the Counterpart Personnel**

Vietnamese side bears the expenses related to the counterpart personnel, in accordance with the Agreement on Technical Cooperation between the Government of Japan and the Government of Vietnam signed on October 20, 1998.

### **2-5. Dispatch of the JICA Study Team**

JICA will dispatch, at its own expense, the JICA Study Team to Vietnam, and the JICA Study Team will jointly work with the Counterpart Team and pursue technology transfer to promote AR-CDM activities in Vietnam in the course of the Study.

## **3. Preparation for the Study by Vietnamese side**

Both sides agreed that Counterpart Team proposes more than one potential area by the first arrival of the JICA Study Team, among which the JICA Study Team and Counterpart Team will select one area as the target area for the small-scale AR-CDM project formulated by the Study.

## **4. Use of JICA's Guidelines for Environmental and Social Considerations**

The Study develops a draft of PDD in accordance with the JICA's guidelines for environmental and social considerations.

## **5. Use of Existing Information**

The Study uses existing information such as natural conditions, socio-economic data, maps and cadastre as much as possible. MARD will coordinate and/or facilitate the provision of existing information.

## **6. Equipment for the Study**

The JICA Study Team would be provided with equipment and supplies necessary for



the Study. The equipment will remain the property of JICA for the duration of the Study, and its ultimate ownership shall be decided by JICA in consultation with DOF.

**7. Office Space**

Vietnamese side provides a small working space in DOF and an office space in VFU. Both spaces will be equipped with telephone and basic furniture for the use of the JICA Study Team.

**8. Public Release of the Study**

Both sides agreed that the results of the Study will be open to the public, in principle, in order to achieve maximum use of the Study results.

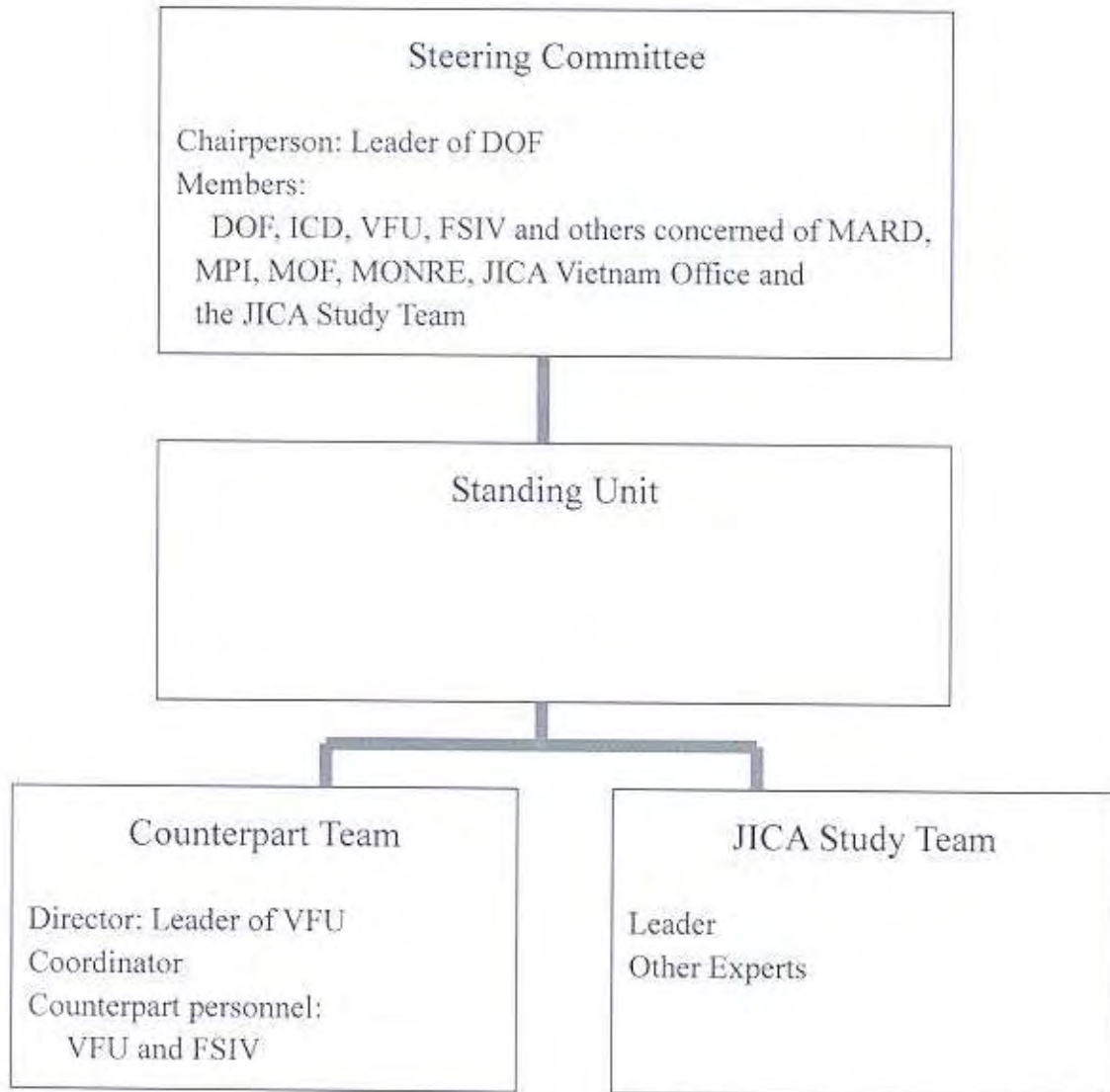
**9. Technical Training Workshops**

During and at the end of the Study, workshops aiming to provide technical skills and knowledge and to disseminate the results of the Study will be jointly organized by DOF, other Counterpart organizations and JICA.





## Organizational Structure for the Study



*[Handwritten signatures and initials in blue ink]*

別添-2

第1回～第4回ステアリングコミTEE会議議事録

**MINUTES OF THE STEERING COMMITTEE MEETING  
ON  
THE INCEPTION REPORT  
OF  
THE STUDY ON CAPACITY DEVELOPMENT FOR AR-CDM PROMOTION  
IN  
THE SOCIALIST REPUBLIC OF VIETNAM**

A meeting of the Steering Committee for the Study on Capacity Development for AR-CDM Promotion in the Socialist Republic of Vietnam (hereinafter referred to as "the Study") was held on 17<sup>th</sup> November 2006 at the meeting room of Department of Forestry (DOF), Ministry of Agriculture and Rural Development (MARD) to discuss the contents of the Inception Report.

As a result of the meeting, the Steering Committee approved the Inception Report of the Study. Participants, agenda, comments raised and an agreement reached at the meeting are presented in the paper attached.

Hanoi, 4 December 2006



---

Mr. Akihiko Sasaki  
Team Leader  
The Study on Capacity Development for  
AR-CDM Promotion (JICA)



---

Mr. Nguyen Quang Duong  
Vice Director  
Department of Forestry  
Ministry of Agriculture and Rural  
Development

## Steering Committee Meeting

Date: AM8:30-11:15, November 17, 2006

Place: Meeting Room No.103, Building B6, Department of Forestry

Participants: <Vietnamese Side>

- Mr. Nguyen Quang Duong (Vice Director, DOF, MARD) - **Chairman**
- Ms. Ha Thi Linh (Senior Officer, Department of Forestry Protection, DOF, MARD)
- Mr. Nguyen Nghia Bien (Deputy-head, Department of Planning, MARD)
- Mr. Phan Xuan Hoan (Vice Rector, VFU)
- Mr. Nguyen Ba Ngai (Head of Scientific Management and International Co-operation Division, VFU)
- Ms. Do Thi Ngoc Bich (Deputy-head of Scientific Management and International Co-operation Division, VFU)
- Mr. Vo Dai Hai (Deputy Director, FSIV)
- Mr. Vu Tan Phuong (Acting Director, RCFEE, FSIV)
- Mr. Hoang Manh Hoa (Climate Change Coordinator, Secretary of CDM National Executive and Consultative Board, FCD, MONRE)

<JICA Expert>

- Mr. Kensei Oda (JICA Expert, MARD)

<JICA>

- Mr. Masao Watanabe (Deputy Resident Representative, JICA Vietnam Office)
- Ms. Tomomi Uchikawa (Global Environmental Department, JICA Head Office)
- Ms. Hoang Thu Thuy (Assistant Program Officer, JICA Vietnam Office)

<JICA Study Team>

- Mr. Akihiko Sasaki (Team Leader, JICA Study Team)
- Mr. Masaru Ishikawa (JICA Study Team)
- Mr. Tomoki Nakamura (JICA Study Team)
- Mr. Ngo Sy Hoai (Interpreter, JICA Study Team)

Agenda:	8:30-8:50	Opening remarks by Mr. Duong (Chairman), MARD and introduction of participants
	8:50-9:30	Presentation of the Study by Mr. Sasaki (JICA Study Team)
	9:30-10:00	Comments and discussions
	10:00-10:15	Tea Break
	10:15-11:00	Comments and discussions
	11:00-11:15	Conclusions and closing remarks by Mr. Duong (Chairman), MARD

Comments:

<Mr. Hoa, MONRE>

- Prime Minister directive No: 35/2005/CT-TTg issued on 17 October 2005 instructs ministries concerned to develop plans regarding CDM. A week ago, MONRE issued an official letter to each ministry to request providing the information on activities related to CDM, which have been carrying out. Base on that, MONRE will synthesize and report to the Prime Minister. He appreciated the efforts of DOF, VFU and FSIV in term of what have been done for implementation of AR-CDM promotion in Vietnam. His presence in the meeting was really a good chance for MONRE to get

information on what have been done so far by MARD in term of AR-CDM promotion. It was confirmed that MONRE is ready to work in cooperation with pleasure with the Study Team and the Counterpart Team during the implementation of the Study.

- MARD is one of the members of CDM National Executive and Consultative Board (CNECB) and should actively work on CDM. Therefore, implementation of the Study by JICA and MARD is welcomed.
- Vietnam has much potential to implement AR-CDM. But there are difficulties in the formulation and implementation. For AR-CDM implementation, capacity building of governmental staff is required. Especially, demonstration of PDD preparation for a small-scale AR-CDM is important in consideration of the conditions in Vietnam.
- Regarding use of ODA fund, Vietnamese government prohibits diversion of ODA for implementation of CDM projects. Vietnamese Government follows Marrakesh Accord in terms of diversion of ODA.

<Mr. Hai, FSIV>

- FSIV has conducted researches such as baseline and carbon sequestration related to AR-CDM. FSIV can much cooperate with the Study.
- For organizational structure of the Study, lessons learned from RENFODA (Project for Rehabilitation of Natural Forest in Degraded Watershed Area in the North of Vietnam) may be referred to.
- Existence of the Standing Unit in the organizational structure may hamper smooth implementation of the Study because responsibilities of the project director may compete with those of the Standing Unit.

<Mr. Hoan, VFU>

- The Inception Report should highlight that draft PDD is a major output of the Study.
- Since land tenure in forest land is fragmented, the Study should consider association of forest holders as a project management unit of small-scale AR-CDM.
- Forest plantations with mixed species are prevailing in Vietnam. Therefore, the Study team should develop a new methodology for monitoring of carbon removals by mixed plantations.

<Mr. Linh, DOFP, MARD>

- There is no comment on the design of the Study.
- There is a need to add a part of explanation of the CDM terminologies in the Inception Report, if possible.
- The Study should compile lessons learned regarding AR-CDM formulation.
- Monitoring system of AR-CDM projects is important and should be elaborated well.
- The Study should consider possible conflicts between ordinary forestry projects and AR-CDM projects in terms of benefits and benefit allocation to local people.

<Mr. Bien, DOP, MARD>

- DOP expects that AR-CDM projects could be formulated through the Study.
- The Inception Report should present project fund and clarify responsibilities of counterpart agencies.

- Regarding use of ODA for CDM, a new decree on ODA management and use should be referred to.

<Mr. Watanabe, JICA Vietnam Office>

- JICA expects that the Study will be officially approved by the Government of Vietnam as soon as possible in order to implement the Study smoothly and effectively.
- JICA will provide logistic. But it was recommended that Vietnamese side has to commit to take responsibility for facilitating the procedures related to the Study as its obligation.

<Mr. Oda, JICA Expert, MARD>

- It was agreed between MARD and the preliminary study mission of JICA that Standing Unit under DOF is necessary for smooth implementation of the Study. Proposed bi-weekly meetings among the Standing Unit, Counterpart Team and Study Team are very important.
- He expects the Study would be implemented smoothly since counterpart agencies, VFU and RCFEE/FSIV, have enthusiasm and willingness to contribute to it, which is very important ingredient for success.

Responses to the comments by Mr. Sasaki (JICA Study Team):

- The Study Team is going to clarify the understanding on "diversion of ODA" by MONRE.
- The Study Team considers that the Standing Unit will not hamper smooth implementation of the Study. The Team is comfortable with the organizational set-up so far.
- The Study Team will carefully review approved methodologies if they are applicable for monitoring carbon removals in mixed plantations. New methodology will be developed only if the approved methodologies can not be applied.
- The Study Team will include definitions of terminology in the Interim Report and Final Report but not in the Inception Report due to lack of time.
- The Study Team will study, in the course of preparation of visions and action plans for AR-CDM promotion, possible conflicts between ordinary forestry projects and AR-CDM projects regarding benefits.
- The Study Team will insert a page to indicate summary of the Study including project fund.

Agreement:

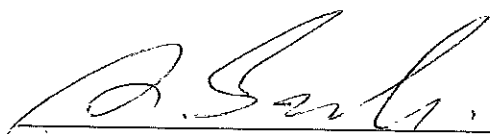
- The Inception Report shall be finalized taking the comments into account and be officially submitted to DOF/MARD by the middle of December 2006.

**MINUTES OF THE STEERING COMMITTEE MEETING  
ON  
THE INTERIM REPORT  
OF  
THE STUDY ON CAPACITY DEVELOPMENT FOR AR-CDM PROMOTION  
IN  
THE SOCIALIST REPUBLIC OF VIETNAM**

A meeting of the Steering Committee for the Study on Capacity Development for AR-CDM Promotion in the Socialist Republic of Vietnam (hereinafter referred to as “the Study”) was held on 18<sup>th</sup> May 2007 at the meeting room of Department of Forestry (DOF), Ministry of Agriculture and Rural Development (MARD) to discuss the contents of the Interim Report.

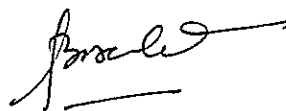
As a result of the meeting, the Steering Committee approved the Interim Report of the Study. Participants, agenda, comments raised and an agreement reached at the meeting are presented in the paper attached.

Hanoi, 31 May 2007



---

Mr. Akihiko Sasaki  
Team Leader  
The Study on Capacity Development for  
AR-CDM Promotion (JICA)



---

Dr. Nguyen Ba Ngai  
Vice Director General  
Department of Forestry  
Ministry of Agriculture and Rural  
Development

## Steering Committee Meeting

Date: AM8:30-11:45, May 18, 2007

Place: Meeting Room, 4th floor of Department of Forestry

Participants:

Name	Position	Organization/Agency
<b>&lt;Vietnamese Side&gt;</b>		
Dr. Nguyen Ba Ngai (Chairman)	Vice Director General	Department of Forestry, MARD
Mr. Bui Chinh Nghia	Deputy Chief	Administrative Division of Forestry Basic Inventory, Department of Forestry, MARD
Dr. Phan Xuan Hoan	Vice Rector	VFU
Ms. Do Thi Ngoc Bich	Deputy-head	Scientific Management and International Co-operation Division, VFU
Mr. Vu Tan Phuong	Acting Director	RCFEE, FSIV
Mr. Do Xuan Lan	Staff	Department of Science and Technology, MARD
Dr. Nguyen Phu Hung	Director	Department of Science and Technology, FIPI
Mr. Pham Xuan Thinh	Expert	Department of Planning, MARD
<b>&lt;JICA Expert&gt;</b>		
Mr. Mikihiro Inoue	JICA Expert	MARD
<b>&lt;JICA&gt;</b>		
Ms. Tomomi Uchikawa	Program Officer	Global Environment Department, JICA Head Office
<b>&lt;JICA Study Team&gt;</b>		
Mr. Akihiko Sasaki	Team Leader	JICA Study Team
Mr. Masaru Ishikawa	CDM Project Planning (1)	JICA Study Team
Mr. Tomoki Nakamura	CDM Forestry (2)	JICA Study Team
Mr. Ngo Sy Hoai	Interpreter	JICA Study Team

Agenda: 8:30-8:50 Opening remarks by Dr. Ngai (Chairman) and introduction of participants  
8:50-10:00 Presentation of the Study by Mr. Sasaki (JICA Study Team)  
10:00-10:15 Tea Break  
10:15-11:30 Comments and discussions  
11:30-11:45 Conclusions and closing remarks by Dr. Ngai (Chairman)

Comments:

<Mr. Vu Tan Phuong>

- With regard to the constraints No.5 (rural people prioritize crop production over reforestation), it is noted that high poverty ratio in rural areas is closely related to the constraints. In other words, rural poor has to prioritize food security over reforestation.



- Developing a new methodology is quite difficult. The JICA Study team and counterpart agencies should justify if the development of a new methodology is necessary or not.
- Establishment of a national DOE in Vietnam is necessary to reduce transaction cost of CDM (all kind of CDM). The Study team should consider ways of establishing national DOE.
- The activities in 2nd year are agreeable. The counterpart agencies request the study team for providing more opportunities for the counterpart to work closely with the Study team for their capacity building.

<Dr. Nguyen Phu Hung>

- Outcome of the Study in 1st year is admirable. In 2nd year, the Study team has to make the Project attractive to investors.
- Establishment of promotion system and capacity-building for AR-CDM promotion are important and other relevant agencies should be involved for the activities. The Study team clarifies the task of each relevant agency on AR-CDM promotion in Vietnam.
- FIPI also has a duty to develop forestry projects. FIPI could support the Study team for development of AR-CDM. In fact, governments of Germany and Switzerland have contacted FIPI on development of forestry project. Therefore, FIPI should be involved in the Study.

<Dr. Phan Xuan Hoan>

- FIPI is not considered as the counterpart organization of the Study, because FIPI declined to be involved in the Study as a counterpart organization at the discussion of the Preliminary Study. However, FIPI was invited and will be invited to the training workshops of the Study for capacity development and sharing of the experiences. FIPI would also be included in the action plans for AR-CDM promotion in Vietnam.
- Regarding development of new methodology, the Study team should utilize and apply existing methodologies approved by UNFCCC. Development of a new methodology is costly and takes longer time.
- The Study team should work carefully on estimation of leakage because it is quite difficult and complicated.
- It is said that there are 6 million ha of bare lands in Vietnam. But identification of Kyoto Land within the bare lands is quite difficult. The Study team should work on ways to identify and better estimate the Kyoto Land.
- Draft vision might be too ambitious. The vision should be prepared from a perspective within Vietnam, not within Indochina. The Study should also consider who shall issue the vision officially.
- Under the recently issued Prime Minister Decision No.47, the government should have a planning to support the implementation of different research activities for promotion of AR-CDM.

<Mr. Bui Chinh Nghia>

- Progress of the Study as well as the coordination among DOF, VFU, RCFEE and the JICA Study team are very good.

- If development of new methodology under the Study is not necessary, it shall be mentioned in Final Report including the justification.
- Regarding the support for establishment of national DOE, it is responsibility of private sector. If the government's support is needed, it shall be mentioned what the government can do for that.
- The Study shall prepare and propose research studies and trainings in details as follow-up activities to be implemented after completion of the JICA Study.
- Helpdesk should be responsible not only for information dissemination and website management but also for drafting of legislative documents relevant to AR-CDM.

<Mr. Do Xuan Lan>

- The 1<sup>st</sup> year study provided remarkable outcomes in such a short period of time.
- There are still much bare lands in Vietnam. But it is unclear whether these lands are suitable for AR-CDM or not. Field survey, field measurement and identification of Kyoto Land are very important.
- Searching investors for forestry development in Vietnam would be quite difficult. Therefore, utilization of other ODA fund such as ADB, WB and kfW would be considered for the Project implementation.

<Mr. Pham Xuan Think>

- Framework for maintaining helpdesk and website after finishing of the Project should be established in the Study.
- Categorization of eligible land for AR-CDM in consideration of existing cartelization of forestry of Vietnam would be established in the guidebook.
- Coordination with other project fund such as WB and ADB would be considered for the Project implementation.

<Ms. Tomomi Uchikawa>

- JICA highly appreciates for smooth implementation of the Study.
- JICA also expects realization of the pilot project although searching for investors to the pilot project is out of the scope of the Study.

<Mr. Akihiko Sasaki>

- The Study team uses an approved methodology to prepare draft PDD since it is applicable in Vietnam. Justification for not developing a new methodology will be described in the final report.
- The Study team considers that support for establishment of national DOE is necessary to make AR-CDM more attractive financially. The Study team will deliberate the practical ways and propose them in the final report.
- It is expected that private manufacturing companies operating in industrial parks near Hanoi would be potential investors for the pilot project.
- Details of help desk and website operation in the future including organizational structure will be described in the final report.
- The Study team will work more closely with the counterpart and encourage them to improve the vision and action plan.

- Identification and estimation of Kyoto Land based on forest statistics is difficult since we can not know about the local situations related to land eligibility and additionality from the statistics alone. Nevertheless, the Study team will study better ways to identify and estimate Kyoto land and propose them in the final report.

Conclusion:

< Dr. Nguyen Ba Ngai >

- MARD highly appreciates for the good progress of the study, good coordination among the counterpart and the Study team, and the contents of the Interim Report. The Study already raised the awareness of people on AR-CDM. It is requested that the Study team should reflect the comments of this meeting in the final report.
- Active participation of the counterpart as well as non counterpart in the Study should be encouraged for capacity building.
- In principle, MARD agrees with the draft vision and action plans for AR-CDM promotion in Vietnam. The draft vision should be improved by the contribution of non counterpart.
- Regarding development of new methodology, the justification for not developing it should be submitted to DOF through the Standing Unit in a month.



**The Study on Capacity Development for AR-CDM Promotion  
in the Socialist Republic of Vietnam  
Japan International Cooperation Agency (JICA)**

*Address: c/o Nippon Koei, Co., Ltd. SPL-III Afforestation Sector, 602, 6th Floor,  
Giang Vo Lake View Building, D10 Giang Vo, Ba Dinh District, Hanoi Tel/Fax: 04-7723293*

Ref. CDARC-07-003

15 June 2007

Dr. Nguyen Ngoc Binh  
Director General  
Department of Forestry, MARD

**Subject: Justification for Not Developing a Draft of New Baseline and  
Monitoring Methodology for AR-CDM by JICA Development Study**

Dear Dr. Nguyen Ngoc Binh,

As suggested at the Steering Committee meeting of the JICA Study held on 18<sup>th</sup> May 2007, we would like to submit you the justification for “not developing a draft of new baseline and monitoring methodology suitable for AR-CDM project in Vietnam” by the on-going JICA Study on Capacity Development for AR-CDM Promotion in Vietnam as follows:

(1) There is a methodology applicable for small-scale AR-CDM in Vietnam

The JICA Study focuses on promotion of small-scale AR-CDM in Vietnam. A simplified methodology for small scale AR-CDM was established by CDM-EB and approved by COP/MOP in 2005. The methodology covers AR-CDM project activities implemented on grasslands or croplands. But “grassland” here also includes shrubs presented in grasslands and croplands below the threshold of canopy cover, minimum area and tree height used to define forests (AR-AMS0001/ Version 03, 23 December 2006). The JICA Study team assesses that the methodology could be used not only for preparation of draft PDD for the pilot project but also for future AR-CDM projects in Vietnam.

(2) Developing a new methodology is time consuming, costly and has a risk of rejection

There are eight (8) approved methodologies for AR-CDM including one (1) simplified methodology for small-scale AR-CDM at present (refer to Annex). It is said that there is no room to develop a new methodology for estimation of carbon stock. In fact, the methodologies approved recently are minor modification of the existing methodologies, for example, in terms of estimation of leakage. Meanwhile, developing a new methodology requires a lot of empirical data for justification and takes much time to develop and to get approval from CDM-EB. The Vietnamese

government or the proponent of the pilot project must frequently communicate with CDM-EB during the review by ARWG and CDM-EB (at least one year). Further, there is a risk of rejection by CDM-EB as many proposed methodologies have been rejected or recommended to re-submit after improvement.

(3) Developing a new methodology will delay the implementation of the pilot project

A proposed new methodology must be submitted to CDM-EB for consideration and approval together with PDD of a project which uses the proposed methodology. Unless the proposed methodology is approved by CDM-EB, the project will not be approved and registered. Because it takes much time to get an approval of CDM-EB on the proposed methodology, it will delay the implementation of the AR-CDM project which uses the proposed methodology for preparing PDD. Early implementation of a pilot AR-CDM project is one of the measures for promotion of AR-CDM in Vietnam as mentioned in the Interim Report of the JICA Study. Therefore, developing a new methodology should be skipped as long as there is an approved methodology applicable in Vietnam.

Development of a draft of new baseline and monitoring methodology is one of the scopes of the JICA Study agreed in July 2006 between JICA and MARD. However, we, JICA Study team, would like to request for your consent in writing to cancel the scope due to the reasons mentioned above.

Your understanding on this matter and continuous close cooperation to the implementation of the Study would be highly appreciated.

Sincerely yours,

---

Akihiko Sasaki  
Team Leader

- Cc: - JICA Vietnam Office  
- Dr. Pham Duc Tuan, Vice Director of DOF, MARD (Head of the Standing Unit of the Study)  
- VFU  
- RCFEE, FSIV

**Annex: Summarized Applicable Conditions of Approved Methodologies for AR-CDM**

Conditions	AR-AM 0001	AR-AM 0002	AR-AM 0003	AR-AM 0004	AR-AM 0005	AR-AM 0006	AR-AM 0007	AR-AMS 0001
<b>&lt;Baseline&gt;</b>								
Degraded land	⊙	⊙	⊙	⊙	○	⊙	-	⊙
Grass land	△	△	△	△	⊙	△	○	○
Crop land	X	X	X	△	X	X	○	○
Wet land	X	X	X	X	X	X	X	X
Settlement	X	X	X	X	X	X	○	X
No encroachment of natural forest vegetation	○	○	○	-	○	○	○	-
Soil C, dead wood and litter decrease in BL scenario	○	-	○	○	○	○	○	-
Baseline AR activities	X	○	X	X	○	X	-	X
<b>&lt;Carbon Pool&gt;</b>								
Above ground	○	○	○	○	○	○	○	○
Below ground	○	○	○	○	○	○	○	○
Litter	X	○	X	X	X	X	○	X
Dead wood	X	○	X	X	X	X	○	X
Soil organic carbon	X	○	X	X	X	○	X	X
<b>&lt;Project Practice&gt;</b>								
Site preparation causing decrease of soil C	X	-	X	X	X	X	X	-
Flooding irrigation	X	-	X	X	X	X	X	-
Soil drainage and disturbance	X	-	X	X	X	X	X	-
Grazing in the project boundary	X	X	○	○	○	X	○	-
Use of nitrogen-fixing species	-	-	X	X	X	○	X	-
<b>&lt;Leakage&gt;</b>								
Shift of pre-project activities	X	X	○	○	○	X	X	○ <50%
Displacement of grazing	X	X	○	○	○	X	X	-
Displacement of fuelwood collection	X	X	○	○	X	X	X	-
Displacement of agriculture	X	X	-	○	X	X	X	-
<b>&lt;For Small-scale AR-CDM&gt;</b>								
Net anthropogenic greenhouse gas removals by sinks is less than 8 kt-CO <sub>2</sub> /yr								○
Involvement of low-income communities and individuals as determined by the host Party								○

AR-AM 0001: Reforestation of degraded land (Version 2)

AR-AM 0002: Restoration of degraded lands through afforestation/reforestation

AR-AM 0003: Afforestation and reforestation of degraded land through tree planting, assisted natural regeneration and control of animal grazing (Version 2)

AR-AM 0004: Reforestation or afforestation of land currently under agricultural use

AR-AM 0005: Afforestation and reforestation project activities implemented for industrial and/or commercial uses

AR-AM 0006: Afforestation/Reforestation with Trees Supported by Shrubs on Degraded Land

AR-AM 0007: Afforestation and Reforestation of Land Currently Under Agricultural or Pastoral Use

AR-AMS 0001: Revised simplified baseline and monitoring methodologies for selected small-scale afforestation and reforestation project activities under the clean development mechanism (Version 3)

**MINUTES OF THE STEERING COMMITTEE MEETING**

**ON**

**THE INTERIM REPORT (2)**

**OF**

**THE STUDY ON CAPACITY DEVELOPMENT FOR AR-CDM PROMOTION**

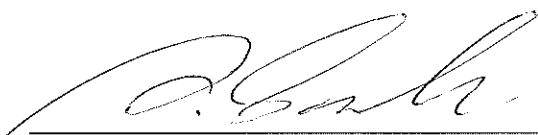
**IN**

**THE SOCIALIST REPUBLIC OF VIETNAM**

A meeting of the Steering Committee for the Study on Capacity Development for AR-CDM Promotion in the Socialist Republic of Vietnam (hereinafter referred to as “the Study”) was held on 22<sup>nd</sup> February 2008 at the meeting room of Department of Forestry (DOF), Ministry of Agriculture and Rural Development (MARD) to discuss and approve the contents of the Interim Report (2) and other related administrative matters.

The details of the meeting and the conclusions are presented in the paper attached hereto.

Hanoi, 22 February 2008



---

Mr. Akihiko Sasaki  
Team Leader  
The Study on Capacity Development for  
AR-CDM Promotion (JICA)



---

Dr. Pham Duc Tuan  
Deputy Director General  
Department of Forestry  
Ministry of Agriculture and Rural  
Development

## Steering Committee Meeting on the Interim Report (2)

- Date:** AM8:40-11:20, 22<sup>nd</sup> February 2008
- Place:** Meeting Room, 4th floor of Department of Forestry
- Agenda:**
- 8:40-8:45 Introduction of participants by Mr. Nghia
  - 8:45-8:50 Opening remarks by Dr. Tuan (Chairman)
  - 8:50-10:20 Presentation of the Study by Mr. Sasaki (JICA Study Team)
  - 10:20-10:40 Tea Break
  - 10:40-11:20 Comments and discussions
  - 11:20-11:30 Conclusions and closing remarks by Dr. Tuan (Chairman)

### Participants:

Name	Position	Organization/Agency
<b>&lt;Vietnamese Side&gt;</b>		
Dr. Pham Duc Tuan <b>(Chairman)</b>	Deputy Director General	Department of Forestry, MARD
Mr. Bui Chinh Nghia	Deputy Chief	Administrative Division of Forestry Basic Inventory, DOF, MARD
Dr. Phan Xuan Hoan	Vice Rector	Vietnam Forestry University(VFU)
Ms. Do Thi Ngoc Bich	Deputy-head	Scientific Management and International Co-operation Division, VFU
Mr. Vo Dai Hai	Deputy Director	Forestry Science Institute of Vietnam (FSIV)
Mr. Le Van Tan	Staff	Department of Science, Technology, Environment, MARD
Mr. Pham Hong Luong	Staff	Department of Finance, MARD
<b>&lt;JICA Expert&gt;</b>		
Mr. Mikihiro Inoue	JICA Expert	DOF, MARD
Ms. Do Thi Thanh Thuy	Assistant	Office of JICA Expert, DOF, MARD
<b>&lt;JICA&gt;</b>		
Mr. Hiroto Mitsugi	Team Director	Forestry and Nature Conservation Team I, Group I, Global Environment Department, JICA Headquarters
Mr. Yosuke Nishii	Staff	Forestry and Nature Conservation Team I, Group I, Global Environment Department, JICA Headquarters
Ms. Eiko Kojima	Project Formulation Adviser	JICA Vietnam Office
Ms. Hoang Thu Thuy	Assistant Program Officer	JICA Vietnam Office



<b>&lt;JICA Study Team&gt;</b>		
Mr. Akihiko Sasaki	Team Leader	JICA Study Team
Ms. Makino Yamada	CDM Forestry (1)	JICA Study Team
Mr. Phung Van Khoa	Interpreter	JICA Study Team

## CONCLUSIONS

### 1. **Approval of the Interim Report (2)**

The steering committee agreed to the contents of the Interim Report (2) of the Study including the vision and action plans for AR-CDM promotion in Vietnam. The Interim Report (2) shall be finalized taking the comments raised at the steering committee meeting into account and be officially submitted to DOF/MARD by the end of March 2008.

### 2. **Cancellation of drafting a new baseline and monitoring methodology**

The steering committee agreed to cancel the drafting of a new baseline and monitoring methodology for small-scale AR-CDM project, despite it was stated as one of the activities under the scope of work at the section 3. "Support for capacity development on a small-scale AR-CDM project formulation" in "IV. SCOPE OF THE STUDY" of the Scope of Work signed between MARD and JICA on July 5, 2006. The JICA Study team justified the matter in the letter submitted to DPF in June 2007 (as attached).

### 3. **Extension of the Study period until March 2009**

The steering committee agreed to extend the Study period until March 2009 to support the validation and registration of the pilot project.

### 4. **Other comments raised in the Meeting**

- From the observation of DOF, this Study is one of the projects which have been implemented very well. The steering committee members all agreed that the Study brought significant and very good results. The results of the Study have helped Vietnam counterparts to understand that the small-scale AR-CDM projects are suitable in Vietnam considering the condition. Therefore, the members do hope that the pilot AR-CDM project in Cao Phong will be materialized and implemented soon. It is really necessary and important not only to prove/demonstrate but also to share experiences and lesson learnt with other AR-CDM projects in the future.
- The steering committee recommends starting the implementation of the pilot project as soon as possible. It is important for justification and stable maintenance of the result of this Study. It will also provide good lessons for implementation of succeeding AR-CDM projects.
- MARD will maintain the AR-CDM helpdesk as discussed and agreed with the vice minister. But, the support from outside is crucial at present. The steering committee would like to propose JICA for the support in future.
- All the activities of the social fund shall follow all the existing regulations of the government.



**The Study on Capacity Development for AR-CDM Promotion  
in the Socialist Republic of Vietnam  
Japan International Cooperation Agency (JICA)**

*Address: c/o Nippon Koei, Co., Ltd. SPL-III Afforestation Sector, 602, 6th Floor,  
Giang Vo Lake View Building, D10 Giang Vo, Ba Dinh District, Hanoi Tel/Fax: 04-7723293*

Ref. CDARC-07-003

15 June 2007

Dr. Nguyen Ngoc Binh  
Director General  
Department of Forestry, MARD

**Subject: Justification for Not Developing a Draft of New Baseline and  
Monitoring Methodology for AR-CDM by JICA Development Study**

Dear Dr. Nguyen Ngoc Binh,

As suggested at the Steering Committee meeting of the JICA Study held on 18<sup>th</sup> May 2007, we would like to submit you the justification for “not developing a draft of new baseline and monitoring methodology suitable for AR-CDM project in Vietnam” by the on-going JICA Study on Capacity Development for AR-CDM Promotion in Vietnam as follows:

(1) There is a methodology applicable for small-scale AR-CDM in Vietnam

The JICA Study focuses on promotion of small-scale AR-CDM in Vietnam. A simplified methodology for small scale AR-CDM was established by CDM-EB and approved by COP/MOP in 2005. The methodology covers AR-CDM project activities implemented on grasslands or croplands. But “grassland” here also includes shrubs presented in grasslands and croplands below the threshold of canopy cover, minimum area and tree height used to define forests (AR-AMS0001/ Version 03, 23 December 2006). The JICA Study team assesses that the methodology could be used not only for preparation of draft PDD for the pilot project but also for future AR-CDM projects in Vietnam.

(2) Developing a new methodology is time consuming, costly and has a risk of rejection

There are eight (8) approved methodologies for AR-CDM including one (1) simplified methodology for small-scale AR-CDM at present (refer to Annex). It is said that there is no room to develop a new methodology for estimation of carbon stock. In fact, the methodologies approved recently are minor modification of the existing methodologies, for example, in terms of estimation of leakage. Meanwhile, developing a new methodology requires a lot of empirical data for justification and takes much time to develop and to get approval from CDM-EB. The Vietnamese

government or the proponent of the pilot project must frequently communicate with CDM-EB during the review by ARWG and CDM-EB (at least one year). Further, there is a risk of rejection by CDM-EB as many proposed methodologies have been rejected or recommended to re-submit after improvement.

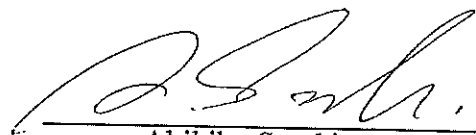
(3) Developing a new methodology will delay the implementation of the pilot project

A proposed new methodology must be submitted to CDM-EB for consideration and approval together with PDD of a project which uses the proposed methodology. Unless the proposed methodology is approved by CDM-EB, the project will not be approved and registered. Because it takes much time to get an approval of CDM-EB on the proposed methodology, it will delay the implementation of the AR-CDM project which uses the proposed methodology for preparing PDD. Early implementation of a pilot AR-CDM project is one of the measures for promotion of AR-CDM in Vietnam as mentioned in the Interim Report of the JICA Study. Therefore, developing a new methodology should be skipped as long as there is an approved methodology applicable in Vietnam.

Development of a draft of new baseline and monitoring methodology is one of the scopes of the JICA Study agreed in July 2006 between JICA and MARD. However, we, JICA Study team, would like to request for your consent in writing to cancel the scope due to the reasons mentioned above.

Your understanding on this matter and continuous close cooperation to the implementation of the Study would be highly appreciated.

Sincerely yours,



Akihiko Sasaki  
Team Leader

- Cc: - JICA Vietnam Office  
- Dr. Pham Duc Tuan, Vice Director of DOF, MARD (Head of the Standing Unit of the Study)  
- VFU  
- RCFEE, FSIV

**Annex: Summarized Applicable Conditions of Approved Methodologies for AR-CDM**

Conditions	AR-AM 0001	AR-AM 0002	AR-AM 0003	AR-AM 0004	AR-AM 0005	AR-AM 0006	AR-AM 0007	AR-AMS 0001
<Baseline>								
Degraded land	⊙	⊙	⊙	⊙	○	⊙	-	⊙
Grass land	△	△	△	△	⊙	△	○	○
Crop land	X	X	X	X	X	X	○	○
Wet land	X	X	X	X	X	X	X	X
Settlement	X	X	X	X	X	X	○	X
No encroachment of natural forest vegetation	○	○	○	-	○	○	○	-
Soil C, dead wood and litter decrease in BL scenario	○	-	○	○	○	○	○	-
Baseline AR activities	X	○	X	X	○	X	-	X
<Carbon Pool>								
Above ground	○	○	○	○	○	○	○	○
Below ground	○	○	○	○	○	○	○	○
Litter	X	○	X	X	X	X	○	X
Dead wood	X	○	X	X	X	X	○	X
Soil organic carbon	X	○	X	X	X	○	X	X
<Project Practice>								
Site preparation causing decrease of soil C	X	-	X	X	X	X	X	-
Flooding irrigation	X	-	X	X	X	X	X	-
Soil drainage and disturbance	X	-	X	X	X	X	X	-
Grazing in the project boundary	X	X	○	○	○	X	○	-
Use of nitrogen-fixing species	-	-	X	X	X	○	X	-
<Leakage>								
Shift of pre-project activities	X	X	○	○	○	X	X	○ <50%
Displacement of grazing	X	X	○	○	○	X	X	-
Displacement of fuelwood collection	X	X	○	○	X	X	X	-
Displacement of agriculture	X	X	-	○	X	X	X	-
<For Small-scale AR-CDM>								
Net anthropogenic greenhouse gas removals by sinks is less than 8 kt-CO2/yr								○
Involvement of low-income communities and individuals as determined by the host Party								○

- AR-AM 0001: Reforestation of degraded land (Version 2)
- AR-AM 0002: Restoration of degraded lands through afforestation/reforestation
- AR-AM 0003: Afforestation and reforestation of degraded land through tree planting, assisted natural regeneration and control of animal grazing (Version 2)
- AR-AM 0004: Reforestation or afforestation of land currently under agricultural use
- AR-AM 0005: Afforestation and reforestation project activities implemented for industrial and/or commercial uses
- AR-AM 0006: Afforestation/Reforestation with Trees Supported by Shrubs on Degraded Land
- AR-AM 0007: Afforestation and Reforestation of Land Currently Under Agricultural or Pastoral Use
- AR-AMS 0001: Revised simplified baseline and monitoring methodologies for selected small-scale afforestation and reforestation project activities under the clean development mechanism (Version 3)

**MINUTES OF THE STEERING COMMITTEE MEETING**  
**ON**  
**THE DRAFT FINAL REPORT**  
**OF**  
**THE STUDY ON CAPACITY DEVELOPMENT FOR AR-CDM PROMOTION**  
**IN**  
**THE SOCIALIST REPUBLIC OF VIETNAM**

A meeting of the Steering Committee for the Study on Capacity Development for AR-CDM Promotion in the Socialist Republic of Vietnam (hereinafter referred to as “the Study”) was held on 15th December, 2008 at the meeting room of Department of Forestry (DOF), Ministry of Agriculture and Rural Development (MARD) to discuss and approve the contents of the Draft Final Report.

The details of the meeting and the conclusions are presented in the paper attached hereto.

Hanoi, 15 December, 2008



---

Mr. Akihiko Sasaki  
Team Leader  
The Study on Capacity Development for  
AR-CDM Promotion (JICA)



---

Dr. Nguyen Ngoc Binh  
Director General  
Department of Forestry  
Ministry of Agriculture and Rural  
Development

## Steering Committee Meeting on the Draft Final Report

**Date:** AM8:40-11:00, 15th December, 2008

**Place:** Meeting Room, 4th floor of Department of Forestry

**Agenda:**

8:40-8:50	Opening remarks by Dr. Binh (Chairman)
8:50-9:10	Presentation by Mr. Sasaki (JICA Study Team)
9:10-9:35	Comments and discussions
9:35-9:50	Coffee Break
9:50-10:50	Comments and discussions
10:50-11:00	Conclusions and closing remarks by Dr. Hoan (on behalf of the Chairman)

**Participants:**

Name	Position	Organization/Agency
<b>&lt;Vietnamese Side&gt;</b>		
Dr. Nguyen Ngoc Binh (Chairman)	Director General	Department of Forestry, MARD
Mr. Pham Manh Cuong	Senior Officer	Department of Forestry, MARD
Dr. Phan Xuan Hoan (acting chairman after Dr. Binh left)	Vice Rector	Vietnam Forestry University (VFU)
Ms. Do Thi Ngoc Bich	Vice-head	Scientific Management and International Co-operation Division, VFU
Mr. Le Quoc Huy	Director	Bio-technology Center, Forestry Science Institute of Vietnam (FSIV)
Mr. Vu Tan Phuong	Director	Research Center for Forest, Ecology and Environment, FSIV
<b>&lt;JICA Expert&gt;</b>		
Mr. Mikihiro Inoue	JICA Expert	DOF, MARD
Ms. Do Thu Thuy	Assistant	Office of JICA Expert, DOF, MARD
Mr. Hiroshi Nakata	Senior Advisor (forestry)	JICA Headquarters
Dr. Wataru Yamamono	Natural Resource management Specialist	Member of JICA' preparatory study mission
<b>&lt;JICA&gt;</b>		
Mr. Yosuke Nishii	Staff	Forestry and Nature Conservation Team I, Group I, Global Environment Department, JICA Headquarters
Mr. Noriaki Murase	Representative	JICA Vietnam Office
<b>&lt;JICA Study Team&gt;</b>		
Mr. Akihiko Sasaki	Team Leader	JICA Study Team
Ms. Makino Yamada	CDM Forestry (1)	JICA Study Team
Mr. Bui The Doi	Interpreter	JICA Study Team

Opinions and comments of the participants as well as the conclusion of the meeting are as follows:

**1. Comments and discussions**

**<Mr. Binh, Chairman>**

Achievement of the study is appropriate to the Strategy of Forestry development of Vietnam in terms of conservation of forest and biodiversity and rewarding of environment service. The PDD of the AR-CDM is now waiting for registration. So necessary preparation for implementation of the AR-CDM project in Cao Phong is very important in order to meet the planting season in early 2009. Actually we had started some activities related to AR-CDM before this study, but there were some difficulties in terms of unclear procedures at that time. That is why we were not successful to go ahead with what we wanted to do. Therefore the output of this study and the feasibility of AR-CDM pilot project in Cao Phong are the good lesson learnt for the others project in Vietnam.

**<Mr. Hoan, Acting Chairman>**

The evaluation of the success of the study by both sides in this meeting is necessary. As one of the counterparts of the JICA Study, I would like to say that the study is very successful. The implementation of the Study was highly efficient even under the limitation of time and budget. There were three reasons of the good efficiency: (a) participation of multi-sectors including DOF, VFU, FSIV, local governments in the Study, (b) not only the capacity building but the implementation of an actual AR-CDM project were supported, and (c) good open-minded relationship between the Study team and the counterparts.

**<Mr. Phuong, RCFEE>**

Highly appreciated the efforts and contributions by JICA study team to the success of the project. The capacity and experience of RCFEE staff and Mr. Phuong has been much improved through this project. Regarding the Draft Final Report, it seems that its contents are not conformity with those mentioned in the Scope of Work for the Study agreed in July 2006 between JICA and MARD. The Scope of Work says "the (Final) report will include analysis of the (study) results, lessons learned, action plan and recommendations to promote AR-CDM in Vietnam." It is also important to consult with other agencies concerned on the vision and action plan for promotion of AR-CDM in Vietnam and propagate them widely.

**<Mr. Sasaki, JICA Study Team>**

JICA Study Team submitted Interim Report (2) to MARD in March 2008. In fact, the contents of the Interim Report (2) are the same as those of the Final Report mentioned in the Scope of Work. And the Draft Final Report submitted by JICA Study Team this time covers those related to validation of the small-scale AR-CDM pilot project only. The JICA Study Team changed the title of the reports as well as the contents after consultation with JICA Tokyo because of the change of the Scope of Work requested by MARD and agreed by JICA, i.e., one year extension of the study period to support the validation of the pilot project additionally. Therefore, JICA Study Team satisfies the Scope of Work agreed between JICA and MARD. Regarding the propagation of the vision and action plan, JICA Study Team considers that it is the task of MARD to propagate them after refinement.

**<Mr. Cuong, DoF>**

Congratulated on the success of the project, thanked JICA for cooperation and support to this project. As we know that approval and registration of an AR-CDM project is very difficult; therefore the success of this study shows that we are able to work with that successfully.

**<Other comments and opinions raised in the meeting>**

- The AR-CDM pilot project is now under the registration process and will be approved by CDM-EB under UNFCCC next year. It is understood that formulation and implementation of AR-CDM projects are not easy exercises. But the pilot project will pave a way for promotion of AR-CDM it in Vietnam. It is also expected the pilot project will contribute to institutionalization of AR-CDM scheme and be replicated in other provinces in the future. MARD could also issue new regulations regarding AR-CDM or PES (payment for environmental services) of forest based on the experiences of the pilot project implementation.
- DOF wishes to implement a larger AR CDM project based on the experiences of the Study and the pilot project. DOF have already asked VFU and FSIV to take initiatives for the promotion of AR CDM.
- Climate change and forest is one of the strategic issues of JICA. JICA intends to provide assistance for such sectors in Vietnam.
- There were inquiries on the AR CDM project through the AR CDM helpdesk and website. There was also an opportunity for AR-CDM help desk in VFU to provide consulting service to ICRAF on AR-CDM project formulation.
- Even after the completion of the Study, the members of JICA Study team are willing to provide necessary support for the implementation of the pilot project including looking for buyers of the carbon credit.

**2. Conclusion**

**<Dr. Hoan, acting chairman>**

The steering committee members all agreed the significant and very good results achieved by the Study as well as the explanation of JICA Study Team regarding the contents of the Draft Final Report. JICA Study team shall finalize the report incorporating the comments to be officially submitted by MARD within two weeks and submit the Final Report by the end of March 2009.